

難は爾來唯増す一方にして、減ずることあらざりき。バイロンの母は、室具匠の勘定を見て卒倒し、それが爲め、遂に不歸の客となりたりと云ふ。『チャイルド・ハロルド』の第一齣の刊行せらるゝや、バイロンは版權をダラスに與へ、文を賣るを好まずと大言壯語せしが、其舌の根未だ乾かざるに、早くも食言の譏ありたり。然れども、當時バイロンが文學に依りて得る所の収入は、毫も其負債を軽くするに足らざりき。是に於て彼は妻の財産に依りて、其苦を免れんと希望を以て結婚したり。然るに新婦の財産は、密封せられたるが故に、手を着けるに由なく、バイロンの救済は思ひも寄らぬことにて、却つて益々不幸を増さしむるに過ぎず。其結婚の結果が甚だ悲むべきものなりしは、世人の普く知る所なり。債權者執達吏の迫害は愈々急なりき。

バイロンは、著書一切の版權賣渡しを決心するに至りしが、書肆は苦情を唱へて諾せず。こゝに書肆がバイロンの爲めに、一時立替へたる金額甚だ多きが故なり。結婚の初年、彼の邸宅は差押へらるゝこと九回、債權者は、毎日其門前に蟻集したり。而して彼が纒かに入獄の苦を免れたるは、貴族と云ふ金看

板の御蔭なりしなり。斯の如きは、彼の如き多情多恨なる人に取りて、非常なる苦痛ならざるべからず。未だ幾何もあらずして、バイロンは、其妻と離別せしが、一時發狂の氣味ありたり。其處女作の刊行に當りて、我は賣文の徒に非ずと大風呂敷を擲けたりしも、貧すれば鈍すると云ふが如く、彼は幾何もなくして、其宣言を忘れ、出版者との懸引策を學び得たり。然れども、バイロン傳の著者ムーアは、吾人に語りて曰く、バイロンが能く負債の苦痛を免れ得るには、唯一死あるのみと。

負債の重荷

人が負債の重荷を負ふ仕方には種々あり。或る者は全く其重荷を感ぜず。或る者は輕々とそを負へり。或る者は債權者を見ること閻魔の如く、或る者は地藏の如し。然れども、徳義の何たるを知らず、物品の借用は借財と等しきものなるを曉らず、代金未拂の衣を着肉を啖ひ、酒を飲み、牛屋、米屋、酒屋、八百屋等の費用にて、客を饗應するが如き人は、其爲す所を至當と心得、卑劣なり不正なりとは思はざるも、其重荷を堪へがたきものと感ずるや必せり。輕卒なる借財家は比較的多し。セオファキラスンバーは負債に首も廻らぬ

始末なるに、一ギニーを借りて、鶺鴒の餌皿を買ふことを惜まざ。フートは、故郷の母より、「親愛なるサムよ。余は目下負債の俘虜となり居れり。來りて、汝の愛する母を救へよ」との手紙を受取るや、直ちに返書を認めて曰く、「親愛なる母上よ、見も亦其通りに御座候。それこそ、彼女の愛見が、彼の母に盡くすべき本分を妨ぐるものにて有之候」と。スチールとシェリダンは負債を尻とも思はざりき。されば、彼等は宴會席上、執達吏を給仕人として杯盤の間に周旋せしめたり。スチールの鐵面皮は比ぶべきものなし。其負債の爲めに、都に住み難く、這々の體にて倫敦を逐電するや、田舎にて、土地の青年男女を集め、遊戯舞踏をなさしめ、大盡然として、賞金を與へたりと云ふに至りては、何人も其大膽不敵に呆れざるを得ざるなり。シェリダンは滑稽談多し、或る人戯れに問うて曰く、

『〇と云ふ字を附けて君の名を呼ぶ者なきは何故ぞ。』

と、シェリダン答へて曰く、「僕よりも其權利を有する者あらず。實際の所、僕は總ての欠に *over* (負ふ) せり」と。又或る時債權者の一人、汚れて破れたる證文を、

示し、其斯の如く破れ斯の如く汚れたるは、出入の度多きが故なりとて怨ずること甚し。シェリダン「友人のことだから、家へ持ち歸つて、羊皮紙に書き換へたまへ」と忠告し、顧みて他を言ふ。

義勇兵の制服一着を作りて、其代金七磅四志を支拂ふこと能はざりしが、爲めに發狂人となりたる詩人バーンスの場合、甚だ異なれり。彼は書を出版書肆に寄せ、詩の出版を豫約して、五磅の前借を無心せりと云ふ。彼の最後の詩は戀歌にして、此借金の内入金として、死の數日前に作られたるものなり。

シドニースミスは、貧困との一大健闘なり。彼家貧にして係累多し。其娘の語る所に據れば、負債を苦にして、夜眠らざること多く、勘定書は積んで、山の如く、精密に取調べて漸次に償却したり煩悶の餘り、面を覆うて「あゝ年を老つてから、牢屋の苦みを受けぬばなるまい」と思はず口走ることありて、傍の見る眼も氣の毒なりしと云ふ。然れども、彼は、不退轉の勇氣と快活なる精神とを以て、汲々として『エディンバー』評論に筆を執りて少許の報酬

を得つゝ、猛進したるが故に、竟に難局を排して、成功の榮冠を戴き、能く忍耐、勤勉、獨立の報酬を收め得たり。

デフオー
とサウジ

デフオーの生涯は、困難及び負債との長さ戦争なり。一波去りて一波來るとは、當に彼の謂ひなるべく、絶えず健闘場裡に立てり、而して其多くは、自ら挑む所のものなりき。彼は青春の時代より勇猛なる雜誌記者にして、一瞬の休息をも求めざりき。後、モンモリス侯と共に軍籍に入りしが、兎角、首枷手枷に縁ありて、生涯の大部分を鐵窓の下に過せり。偶々彼の敵に彼の窮狀斯の如きを見て笑ふ者あり。彼即ち慨然として、勿々解嘲の文を草し、平和を追求するが爲めに、無數の戰闘に従事したること、他人の債務を救はんが爲めに、自己の債務を犠牲にして世の毀譽に拘泥せざりしこと、一家の係累多き身を以て、獨立獨歩、猛然として、負債と薄運との海上を乗切りしこと、及び獄中に於ても失敗に於ても、如何なる難局に於ても、親戚朋友の助けを待たず、獨力にて支へたることを宣言したり。確かに、デフオーの生涯の如き、健闘艱難の生涯は、未だ會て聞かざる所なり。然れども、其文學上の勞力は、彼の負債を

償却するに足らざりき。

サウジは、デフオーの如く、勤勉なる文學者なり。然れども、彼の生涯は、學者の書齋的生活にして、爭論家の攻撃的生活にあらず。彼は負債を有せざりしにあらざりしも、負債の奴隸となることあらざりき。彼は青春の時代に於て、既に雄々しくも、償却の目的なき負債を作さざるべしと決心の臍を堅めたり。彼は能く其決心を實行せしのみならず、亦友人を救ふことを得たり。——一時義弟コルリツヂ及びローベルの家族を給與したることあり。——彼に此餘裕ありたるは、勤儉なりしに因る。サウジの當りし難局は、薄志弱行の徒の耐へ得る所のものにあらず。斯の如き難關を控えながら、彼は意氣毫も衰へず、能く働き、能く勉強し、能く書き、彼自身及び食客を支ふるに足る費用を儲け、未だ會て一度も不平を言はざりき。彼は常に親戚を扶助したるのみならず、亦同窓の友人に厚かりき。詩人コルリツヂが、鴉片に耽りたる時、彼はコルリツヂの家族を引取りて世話したり。各方面よりの無心に應ずる爲め、彼は別途の收入を稼きたり。彼は青年を愛し、常に有益なる忠告を與へり。

て、鼓舞獎勵せられ前途多望の青年なりしが、惜むべし才子薄命の嘆に漏れず、亦金錢を以て彼等を助けたり、彼は亦チャタートンの妹の落魄せるを救ひぬ、彼は斯の如く公明正大無私の心を以て死に至るまで文學を友としつゝ働きたり、『貧しきほどさばかり學あるにあらず、誇るほどさばかり貧しきにあらず、幸福なるほどさばかり誇るにあらず』とは彼の自畫自賛なり。

スコット

詩人サアウアルタースコットの生涯中、最も人を感動せしむるものは、コンスタブル會社と云ふ出版會社の破産に依りて、巨萬の社債を一身に引受けたる以後の行動なり、彼は、郷里アボッツフォードに邸宅を構へ、土地第一の紳士として、郡長を兼ね何不足なく、詩藝を肥やしつゝ、自ら以て富めりとなしたるが、好事魔多くして、コンスタブル會社の破産、突如として天下の耳目を驚かし、彼は十萬磅の債を負ふに至れり、會社破産の警報に接するや、斯んなに働いた末にとらう、貧乏人になるとは、誠に情けない次第だ、然し神

が万一私に、尙數年間健康と力とを惠んで下さるならば、屹度負債を償却して見せる』と言ひて、狼狽の氣色あらざりき、何人も彼を落魄せりと想像し、スコット自身も其如く感じたり、然れども、彼の勇氣は、挫折せざりき、債權者等も氣の毒に思ひて、有利なる相談を呈出せしが、氣骨稜々たるスコットは、之に従ふを以て、男子の屑しとせざる所なりとて、峻拒して曰く、『否、諸君、時と僕とは如何なる二つの者にも當る』と、負債の責任者は他にありしも、スコットは、義として獨り晏然たる能はず、自ら進んで其難關を引受け、能ふ可くんば、一錢をも剩さず償却せんと決心し、奮然として猛進したり、然れども、これは彼の一生を賭すべき難關なり。

是に於て、彼は住宅及び家財を賣却し、私有財産全部を債權者に渡し、年賦償却を契約せり、爾來彼は著述に汲々とし、是に依りて負債の大部分を償却したるが、多作濫作の結果、眼覺ましき傑作は少なかりき、其多作の一は『那翁傳』にして、危然たる九卷の大冊をば、苦痛悲哀、落魄の眞只中にて、僅十三ヶ月に仕上げたり、而して其原稿料は、一萬三千磅なり、一度腦充血の爲めに倒れ

たるも再び健康を回復して著述すること四ヶ年、負債の三分の二を償却したり。斯の如きは、文學史上類例なき成功なりとす。

彼が生涯の最後の數年間に於ける犠牲と盡力とは、スコットが眞勇の人なることを示すものなり。彼は死に至るまで勇猛不退轉なる精神を失はざりき。醫師が過度に腦力を使ふことを禁じたる時、スコットは「私は怠けたら狂人になりませぬ。其れに比ぶれば、死を厭ひませぬ」と答へたり。永遠の眠に就く數時間前、スコットはアボッツフォードの邸前の芝生の上の椅子に靠れて假睡しつゝありしが、突然起き上がり、スコッチ羅紗の上衣を脱ぎ棄て、叫びて曰ふ、「斯う怠けては仕方がない。私の室へ連れて行つて、机の鍵を持つて來い。」家人等は命の如く、書齋に運び筆と紙とを彼の前に置きたり。然るに彼は筆を握ること能はざりき。况んや書くことをや。暗涙潸々、彼の双頬に傳はりぬ。彼の精神は失はれざりしも、彼の體力は消耗し盡くしたるなり。斯くて、彼は死せり。小兒の如く眠りて横はりぬ。

スコット以爲く、貧乏は負債よりも輕き重荷なりと、人間らしき人間は當

に此所感あるべし。貧乏は決して恥づべきものに非ず。大なる精神ある人には、最も良き刺戟劑なり。ジアン・パウル曰く、「金の山及び王座の下に、靈の巨人多く埋めらる」と。リヒタルも、貧乏は、人生に餘り、曉れざる中に、歡迎すべきものなりと言へり。されば、スコットの重荷は、其來ること晩年なりしが故に、重きに過ぎたるや明かなり。

偉大なる貧人

シエロクスピアは、固より貧乏人なりき。カトライル曰く、「缺乏、不安、危機、頻りに、ストラットフォード・オン・エヴァンを騒がすことなかりせば、我がシエロクスピアは、屠牛、機業を以て、生活せざりしやも計り難し」と。ミルトンやドライデンの貧は、彼等をして多くの傑作を文壇に貢獻せしめたり。

ジョンソン

ジョンソンは、甚だ貧なりしも亦甚だ勇ありき。彼は富の如何なるものなるやを知らざりし人なり。彼の精神は常に其財産より大なりき。而して、人の貧富及び幸不幸は、全く其精神に在るものなり。ジョンソンの野人禮に嫻はざるが如き儀容の下には、實に勇らしき貴き性質宿れるなりき。彼は若くして貧窮と負債とを知りしも、斷然其苦痛を免れんと決心せり。大學に在る頃、

靴破れ足出て、亦用を爲さずと雖も、新調すべき資力なし。彼の頭は學殖豊富なれども、其財布の底は常に軽かりき。倫敦在留第一一年間に、如何に貧困と戦ひしかを知らんと欲せば、諸君須らく『ジョンソン傳』を讀め。彼は一日四片半にて下宿したりしが、寢臺料を拂ふこと能はざるが故に、サヴェーヂと共に、倫敦市中を徘徊して、夜を明かしたりと云ふ。彼は、手を空しうして、僥倖の來るを待つ、の愚を學ばず、難局を排して、成功の榮冠を戴かんと、勇らしく、勇戰奮闘したりしなり。

ジョンソンが、其青春時代に經たる辛酸苦楚は、其性質に長く其創痕を留めたりしが、これが爲めに、彼は經驗を得たること甚だ多く、又同情に富むことを得たり。されば、如何ほど窮したる場合と雖も、他の危急を見るときは、同情の念禁ずる能はず、東奔西走其人を救はずんば己まざりき。

ジョンソンほど、負債問題に容喙する權利を有する經驗家はあらざるべし。其友人ボスウェルに寄せたる書信に曰く、『負債を唯不利益とのみ御考へ成さるまじく、貴下は負債を一の災害なりと悟らるゝならんと存候。他人に債

を負はざるやう第一に御心懸あらまほしく、貴下の所有せらるゝものは、何にても消費を少なく致され度候。節儉は實に安寧の基なるのみならず、亦仁の一端に御座候。』ジョンソンと云へる辯護士に寄せたる書狀にも曰く、『小なる負債は、猶ほ小銃の如く、何れの方面にも亂發せられ、傷を被らずして免るゝことは、先づ六ヶ敷きものに候へども、大なる負債は、恰も大砲の如く、音響大なれども、危険は少なきものに候。されば、大なる負債と戦うて、緋々餘裕あるには、平素小なる負債を償却し得ること緊要と存候。』忍耐にして従順なるボスウェルを戒めて曰く、『君よ、成るべく心の平和を保ち、収入以内の生活を營むべし。然るときは、過なからん』と。

機智能才、或は天才に依りて生活する人には、兎角、不經濟なる傾向あり。佛國の詩人シャルル・ノデー、天才某を評して曰く、『才藝の生活に於て、彼は、天使用なり。日常の實用的生活に於て、彼は、小兒なり』と。こゝは、文豪、大美術家の多くに適用することを得べき評語なり。文藝上の偉人は、其製作に全力を傾注して、金錢を眼中に置かず。若し彼等にして、金錢問題を先にせば、恐らく世界は、

彼等が天才の産物を賞翫することおらざるべし。ミルトンは初版の原稿料五磅を得るを唯一の目的として、『失樂園』の爲めに多年の辛苦經營を爲さざりしなるべし。ジルレルが二十年間苦心の未思想の絶頂に達したるは、單に原稿料に依りて、細き活字の煙を立てんが爲めのみにおらざりしならん。

進莫天才の人も、尋常一般の算術の法則を輕んずべからず。支出、收入より多きときは、勢ひ債を負はざるを得ず。而かも、人生の不如意を嘆ずる意は、竟に復び彼等をして、負債より脱却することおらざらしめん。彼等も他人と同じく、成功と失敗との二途を有す。故に、若しも彼等にして不經濟ならば、他人と同一の結果を蒙らん。サッカレは小説『ベンデンニス』に於て、ケプテン、ジャンドンの性格を描寫して、文學者に一大侮辱を與へたり。然れども彼は唯眞理を眞理として語りし故なり。曰く、『法律家でも、軍人でも、將た僧侶でも、收入を越えて勘定を拂はねば、入獄せねばならぬ。文學者でも同じ事だ』と。

文學者

文學者は其文學者たるの故を以て、默許せらるゝものにあらず。彼等は文學者たるの故に、社會的犯罪を看過せよと、社會に望むの權利を有せざるな

り。文學者及び美術家が一般の人の如く、他日の不慮の災難に備ふる爲め、貧殖の用意をなすは、社會の爲めにも、彼等自身の爲めにも必要なり。マダム・デステール曰く、『空想と藝術とは、此世に於て彼等自身の安寧幸福を搜索するの要あり』と、社會は能く寛大なる態度を以て、彼等を助けざるべからず。然れども、彼等自ら助くるに、あらずれば、何等の甲斐もあらざるなり。

第十四章

富者と慈善

誰ぞ——此處に在る者は誰ぞ。我、ドンカスターのロバートなり。我持ちしものを我消費したり。我有するものを我興へたり。我失ひしものを我残したり。

紀元千五百七十九年墓銘

汝富めりと雖も、汝は貧しきなり。如何となれば、背の曲れる驢の如く、汝は重き貨財を負うて、彼方此方にさまよひ、死に至るまで、重荷を卸すことなければなり。

シエークスピーア

慈善は善なり。されど、何人の爲めにするか。これ問題なり。

ラフオンテーン

喜まれたる一ペンニーを、儲けたる一シルリングよりも悦ぶ怠け者多し。

ドカケラスセロールド

彼は、家を盗み、神の御名によりて、貧人に其脚を興へぬ。

西班牙俚諺

仁ならんと欲せば、儉ならざるべからず。勤儉は、勤儉を以て終るのみにあ

らずして、他人に其恩澤を及ぼすものなり。慈善院の設立、或は大學を創立して教育の上進を計るが如きは、勤儉の餘澤なり。仁恵は最も良き性情より發するものにして、其神聖なる精神は、ハワード、クラークソン、或はザヴィエルの如き世界の慈善家を、道德及び國民的崇拜の最絶頂に高むるものなり。此感情は人類一般の人情を一貫せり。貧民其日稼ぎの勞働者將に下司と雖も慈善の天賦と祝福とを有す。此般の祝福とは、蓋し慈善を爲す人の満足は慈善を受くる人の満足と大差なきを云ふ。

“Man is dear to man; the poorest poor

Long for some moments, in a wenny life,

When they can know and feel that they have been

Themselves the fathers and the dealers-out

Of some small blessings; have been kind to such

As needed kindness, for this single cause,

That we have all of us one human heart.”

助け無き者な助くる事

助けなき者を助けよとの聲は、天下に喧しく、特に宗教家、道德家の唱道する所なり。これは個人的にも、社會的にも、人間本來の職分なり。蓋し個人的より

見ば、吾人は災禍の中より、寡婦及び孤兒を救はざる可からず。社會的より見ば、社會は各人に、社會の進歩と安寧とを計ることを要求するが故なり。仁ならんと欲するには必ずしも富者たることを要せず。ジョン・バウンツは富豪ならざりしも、其感化に依りて貧兒學校續々として創立せられぬ。彼は資性清廉にして、獨力其収入を以て貧生を養ひ、親切を以て彼等に蒞みしかば、彼等も亦彼を徳とし、時に焼芋を以て僅かに飢を凌ぐことあるも、彼等は敢て意に介する所あらざりき。彼は彼等貧兒を教育し、自ら善き模範を與へて指導せしかば、彼等は皆社會に出て、有益なる人となりぬ。日曜學校の創設者たるロバート・トレイクスも富豪にあらず。囚人保護者トーマス・ライドも亦然り。教育と愛との先驅者たる聖バンサン・デ・ポール及びマシユウは富豪にあらず。學界の偉人ニウトン、ワット、フアラデーも、大宣教師、サヴィエル、マーチン、ガレリ、及びリヴィングストンも亦然り。

フ博士
ウオルトンの『博士ドン傳』中に慈善の好例あり。博士ドンのセント・ポール寺の副收師となるや、今まで薄給に苦しみたるに、一躍して意外なる収入あ

る身分となりぬ。彼即ち以爲らく、此収入は之を利用して、人類の救助と神徳の發揚とに供せんが爲めに委託せられたるものなりと、博士ドンが私に先づ其収入を計算し、貧民救助及び其他の慈善事業に要するものと、自己の生計費とを定め、以て毫も私する所なかりしは、神の外に知る人罕なり。

博士ドンは多く陰徳を施せり。故に彼の左手すら、其右手の爲せる所を知らざるなり。彼は多くの罪人を救ひ、貧書生を助けぬ。而して貧者に慈善金を分つには、一人の正直なる従者をして之に當らしめたり。嘗て一友人あり、家素と甚だ富みたりしも、豪奢にして金錢に愛惜心なかりしかば、數年ならずして零落を極む。ドン其窮狀を憫み、之に百磅を贈る。然るに其人を受くるを屑しとせず、厚意は甚だ謝するに餘りあれども、差當り必要なければとて、返戻し來りぬ。ウオルトンの記する所は次の如し。何人にも、貧乏を自白して恥かしき思ひするよりも、貧苦に堪ふるに如かずと云ふ。瘦我慢心あるものなり。又兎角く體裁を繕ふものなり。されば博士ドンは、之に答へて曰く、足下が米鹽の料に缺くる所なきことは、手の充分に知悉する所なり。然れども、

予の希望は、嘗て全盛時代に於て、多數の人の心を喜ばしめたる足下が、今予の寸志を受納せられ、足下の心を歎ばす所の刺戟劑に使用せられんことなりと』是に於て彼の志は遂に受納せられぬ。

吾人が金力を視ること甚だ重きに過ぐるは事實なり、人の不善を改良せん目的を以て、巨額の義捐金募集せらるゝことあれども、義捐金は其目的を遂ぐることを得ざるなり、仕事を爲すものは品性にして、金錢にあらざるなり、社會の大改良は金力の能くする所にあらず、世人の無節制、不注意、不信心を矯正し、正路を踏んで幸福を求めしめんには、牢乎たる意志と、眞正の仁と、勞力とを要す、金錢は種々の點に於て補助物たることを得れども、金錢其ものには、何事をも爲す力なし、使徒ポールは羅馬帝國の半以上に、基督教を扶植したり、されど彼は天幕製造を以て活計の業とし、義捐金の募集を生業とはなさざりき、誠實熱心なる篤志家こそ、慈善事業に金を喜捨する富豪よりも、復かに必要なれ。

拜金主義

金力ほど重大視せらるゝものはあらず、何人も社會に勢力を得んには、金

力を最も必要なりとす、彼等は所謂拜金宗なり、唯虚名を銜はんが爲めの、表裏相反せる二三者の偽善的的事业は憎むべきものなり、ジエームス王曰く、『おと、ジョルデル、よ、響あるジョルデル、よ、ペービ、ト、チャールズが偽善の罪を鳴らし、ステニーが淫逸の醜惡を道破するを聞くは、豈に快ならずや』と。

世の拜金宗の人あり、昔、イスラエル人は黄金の牛を崇拜し、希臘人は黄金のジュピターを祭れり、老パウソングラビは、一萬磅の評價ある人を重んぜり、パウソングラビの亞流は天下に甚だ多く、彼人の身代は如何、『彼人には幾何の收入ありや』など云ふは、常に聞く所の質問なり、若し、夫れ、卿等、此に、善良、仁惠なる君子あり、と云はんか、何人も之に、耳を傾けざる可し、されど、若し、卿等、彼人は幾萬圓の財産家なり、と云はんか、衆必ず目を側て、彼の後影を見送るなる可し、バード、パーク、コナーは、富豪の通行を觀んとて、常に俗物の群集する處なり、『驚破、クロッキ、様のお行てだ』と云ふ聲、何人かの口より響く時、群集は左右に道を開き、呀とばかりに驚嘆して、良少時、其後影を見送るなり、而して、其クロッキ、様とは、賭博場の親方として、巨萬の富を作りしク

ロックスフォードの事なり。

ゴリア嬢の『資本家』と云ふ書の序文に曰く、『百萬圓の金の音響は、英國人の耳を燃るにぞある。金銭を愛すること法外なるが故に、英國人は是非を論ぜずして國債に盲従す。金満家となれば、品性、素性、品行、職業等の醜劣は不問に附せらる。……國家の名譽を高むる傾向有りとも、野心と金銭の愛惜心とは、國民を形づくる所の個人を陋劣ならしむるものなり。金力に熱中するが故に、英國人は漸次其品性を失ひつゝあるなり。……鐵道熱或は投機熱の盛んなるは、即ち早晩確實なる事業に、資本を投ずる者無きに至ることを證據立つるものなりと謂ふ可し』と。

黄金の愛は、一切の者を席卷す。我國人は舉つて拜金宗となれり。金力以外の幸福は、總て無視せられ、又空に歸したり。而して拜金家は慈善金を出せば、即ち彼等の徳義を償ふに足るとの空想を抱けり。豈に驚くべきにあらずや。由の如く積める黄金は情と靈とを壓す。金力に抵抗する力あり、勤勉にして、意志の強固なる人は油斷すべからざるなり。何となれば、金満家と云ふもの

は、多くは、怠惰奢侈、淫逸に流れ易きが故なり。……マインルの牧師總長グリフホッフス嘗て言へることあり、曰く、『若し金銭が、人をして、人を忘れしむること微かりせば、社會に於ける罪惡の過半は生ぜざりしならん。又若し主人が被傭者に接近し、被傭者が主人に接近することを得ば、吾人は、此猛烈なる火責の苦を受くることあらざるべし。傭主たる者は被傭者をして酒樓に出入せしめざる策を講ぜざるべからず。又其莫大なる收益の一部を割きて、勞働者の爲めに、娛樂及び保養の場所を設くべし。便利なる相當の住宅を建て、貸與すべし。斯の如きは、即ち同盟罷工の如き禍根を絶つ所以なり。我ウエールズの地中より掘出せし寶は既に幾億圓に上りて、天下の意氣頓に昂れることを聞けども、未だ公共的會場、公園、圖書館、其他文明的事業の設立に就いて、耳にする所あらず。十五ヶ月以前實業全盛時代に於て、吾人は大に反省を促せしかども、大聲俚耳に入らざるの憾みありた。金貸が、冬は雪の鷲毛に似て霏々たるが如く、夏は覆盆子の集めらるゝが如き時に方りて、天下豈に微々たる一説教坊主の言に耳を傾くるものあ

らんや』と。

彼等は既に充分の財産を有しながら猶ほ定ることを知らず貧乏人の醜態たるが如く貨殖に汲々たり。彼等は金錢の奴隸にして望蜀の念飽くまで強く利を見れば思慮を失ふ。斯の如き守銭奴は多くは無教育者なり無學文盲なり文學的趣味なく讀書力に乏しく甚しきに至りては自己の姓名をも署し能はざる者あり。彼等は貨殖以外何等の思想を有せず。拜金以外に信仰なし。彼等は其見を束縛して奴隸的教育を加ふ。

財産は竟に其子の所有となる。小使錢も碌々與へられざりし彼等は、今や濫費家となり何等の高尙なる趣味を教へられざりしかば、乃ち放蕩家となる。彼等は旦那然として父の如く稼ぐことを好まず、所謂紳士を氣取りて紳士の如く豪者を極む。是に於て金錢は忽ち羽翼を生じて何處ともなく飛び去るべし。俗諺に曰く名家に三代なしと。賣家と唐様で書く三代目なる者天下豈に一二にして止まらんや。ランカシアの俚諺に曰く二度は木靴、一度は革靴』と。蓋し初代目は木靴を穿いて貨殖に汲々し、二代目は其親譲りの身

代を潰して三代目は木靴を穿く舊の木阿彌となるの意なり。或る代議士候補者倫敦市廳に召喚せられ破廉恥罪の有無を尋問せられける時『破廉恥ですか。ハイ私は破廉恥の籤を引いたものです。破廉恥の匂ひが有ります』と答へたりとなん。

蘇格蘭にも同一の社會的傾向あり。其俚諺に曰く『祖父は地を堀る。親父が建てる。而して倅は乞食する』と。蓋し祖父が辛抱して稼ぎためたる身代にて親父は別莊を建て倅は家藏を潰して苦し紛れに悪心を起すの意なり。浮沈は商人の常にして今日帝王の如き者明日忽ち乞食の如きは往々見る所なり。商人は投機的野心ある間は、一攫千金の奇利を博せる伎倆は、即ち偶々以て萬金を失ふ所以なり。

老後の富

老後に幸福を期せば青年及び壯年時代に於て其精神を健全に働かざる可からず。自ら智識を磨きて社會の進歩改善を計る爲めに一切の爲されたるもの及び爲しつゝある所のものを利用せざるべからず。何人にも一生涯中には傳記或は歴史を讀みて自ら利すべき餘暇充分に有るものなり。嘗

に然るのみならず、亦貨殖以外、高尚なる學問に心を寄せて、智識を練磨することをも得べし、娛樂一方にては不可なり。人は娛樂に依りて幸福なるものにあらず。快樂一方の人は、憐むべき動物なり。殊に老年に於て然りとす。却つて文學、哲學、科學等の研究は、死の斷末魔までも平和なる快樂に満てるものなり。老いたる金満家が貨殖以外に一つの娛樂なれば、其老年時代は不幸なり。身代こそ恐らく、太るべけれども、彼の行路は千篇一律なり。そは何故ぞ。彼は其金貨を食ふこと能はず。そを使用すること能はず。彼の財産は彼を利すること無く、却つて禍の種となる。彼は守錢奴なり。吝嗇は罪惡の最も賤劣なるものなり。世人彼を呼んで禽獸と云ひ、三文の價値なき人間となる。

臨終の際に、銀行より引出し來りたる金貨を計へて、莞爾たるより他に何等の樂みもなき富豪の最後は、實に憐むべきものにあらずや。世界が滅亡しても、彼は尙ほ其金貨を手離さざりき。彼は一つ／＼其金貨を撫てつゝ、息絶えぬ。守錢奴エルウェス將に死せんとし叫んで曰く、「俺は俺の錢を持つて行く。俺の財産は誰にも與らぬ」と。賤劣も亦甚しからずや。

金力には
光榮の要
求權なし

富者が金錢の愛惜心の爲めに罪あるは、貧者が其缺乏の爲めに罪あるよりも更に甚しきものあり。彼等は吝嗇となり、一錢の出費をも惜みて、以て乞食の如き最後を遂ぐ。其例甚だ少なからず。倫敦に一豪商あり、食ふものも食はずして、貨殖に汲々たること多年、遂に其郷里に歸り、貧民救助院の厄介となれり。彼は數百万圓の財産を有せしが、出すことにかけては、一厘の錢をも惜みしなり。而して彼は貧民救助院内にて、全く窮民と同様の死を遂げたり。蘇格蘭にも貧民救助院の厄介となりて往生したる一富豪ありたり。勿論救助院の彼等に要せし費用は、彼等の死後遺産取扱人より辨償せられたり。

而して、此等二人の富豪が死後に貽したるものは何ぞや。唯富豪と云ふだけの名譽に過ぎず。然れども金錢は光榮を請求すべき資格を有せざるなり。金錢を金錢として崇拜する者は陋なり。金錢は市場の一材料のみ。方今濟々たる富豪中の或る者は、土偶の如し、彼等の多數は無學なり。彼等は道德上にも社會上にも零なり。最近の統計に依れば、英國に、百万磅以上の財産家二百二十四名あり。其中には、強慾を以て名高き者あり、投機を以て奇利を獲

たる者あり。或る者は土方上がりなり。炭坑夫上がり。或は職工上がりなり。而して名聲ある者は極めて少なし。吾人は唯金満家と云ふより他に評すべき言を知らざるなり。

ゼレミ・テラー曰く、『世の富豪、吝嗇家及び世人は、死後に、彼は金満家と成りて死せり』との評あるを以て、其節儉に對する惡報酬なることを悟るならん。而かも彼の財産は地下に於て彼を益する所なく、唯彼の最後を著しく不幸ならしむるに過ぎず』と。

ゴリア嬢曰く、『富の追求をして、大陸諸國よりも、英國に於て、多く激烈且つ當然の争ひたらしむる最大原因の一は、家産の分配の不等にして、輕薄なるに在り。……田舎紳士及び有職者否紳士の資格なき人は、一般に、獨り長子に厚くして、次子以下に薄き傾向あり。而して斯の如く迫害せられたる者は、多く自尊心を失ひ、同胞の權利を無視して拜金宗となる。迫害せられたるが故に、彼等は迫害する順番となる。彼等は一生を賭して、家督相續權回復運動に熱狂せり。營利的結婚、詐偽的賣買、或は政略的不正事業の社會に頻繁なる

は、長子を一ダイブス(富者の義)となし、次子を一ラザラス(乞丐の義)となす惡風習の結果なり』と。

言されど、共和黨も、金錢の愛に於ては、專制主義の人に譲らず、富豪たらんこと熱心にして、義理も人情も辨へざる人士、共和黨に多し。政府の形式は金錢の愛惜心に毫も關係あらず。大ケイトーは高利貸なりき。彼が貨殖法の一は、安價に營養不充なる青年奴隸を買ふことなり。かくて、彼は件の奴隸を肥滿せしめ、仕事を練習し、而して高價に賣飛ばしたりと云ふ。ブルータスは、サイブラス島に在る頃、四割八分の高利にて金貸しを業とせしが、何人も彼を難ずることあらざりき。米國獨立の本尊たるワシントンには、其妻に數人の奴隸を遺せり。自由主義の彼は、敢て奴隸に自由を與へざりしなり。紐育市にては、自治上に不正事件なく、而して其有力なる市民は、政治的腐敗を極めたり。ミルの言ふ所に依れば、北東地方の人は、明かに社會的不正及び不平均を免れ、資本及び土地と人口との比例は、體力強健なる人に對して、豊富を保障し、彼等は平民特許權六ヶ條に満足して、貧に苦しむの要なしと、然れども此

サラマン
大王の事

便益ありし爲めに、彼等は沿々として拜金宗となりぬ。故にミルも曰く「これは社會的完全の一種にあらずして、未來の慈善家は其實現を喜ばざる可し」と。

サラメン大王はシリア、アラビア、ペルシア及びメソポタミアを征服せし大英雄なりき。其權勢と富とは非常なるものなりしも、彼は能く貨財の弊害を知り、命じて巨万金を回々教徒、猶太人及び耶蘇教徒間に分配せしむ。そは此等三宗教の僧侶をして、彼の爲めに祝福を神に祈らしめんが爲めなりき。

彼は又命じて、崩御の際、着用せる下衣を鎗の尖に捧げ、麾下の全軍に示して言はしめて曰く、『見よ、サラメン帝の遺物を、彼が征服したる全土の遺物なり。彼の勝利の遺物なり。彼が蓄積したる財寶の遺物なり。彼の所有資産の遺物なり。彼は上天の時、此經帷子以外に、何ものをも貯へざりしなり』と。

サラマン

サラマンカは、グラナダ大學に在る頃、いと古びて裂けたる袈裟を着用し居たり。勤勉なる學生なりしかば、優等の成績を以て卒業し、新聞記者となりしが、遂にクリステナ女王の内閣に入りて、大藏大臣の要職に就けり。是に於て彼の非凡なる商才現はれ、種々の商業的投

機を試みたり。彼は西班牙及び伊太利に數個の鐵道を起し、又種々の汽船會社を創立して、莫大なる利益を得たり。然れども、斯の如く金儲けに汲々たる間にも、彼は決して文學を忘るゝことなく、毎週一回、文壇の名士、新聞記者等を招待して饗應せり。而して彼等も亦其知遇に感じ、粗末なる晝餐會を開きて、彼の厚意に報いぬ。シエルクスピア、セルバンテス、ダンテ、シルレル其他の文豪の半身像は、彼の客室を飾るものなりき。

サラマンカは、其健康を大學時代の練習と出版事業の勞働との賜なりとし、且つ曰く『當時余は拜金主義に傾けり。而して、予が金儲けの端緒を發見したるは、マドリッドに於てなり。されど、我青春の空想は、不幸にして滅する。とあらざりき。諸君請ふ予の言を信ぜよ。人は、其希望を、全く満たすときは、最早快樂を有せざるなり。予は切に、諸君が、一たび進み初めたる行路を保たんことを希ふ。ロステチャイルドの聲價は、彼の死の日に終るならん。不滅は儲け得らるゝものなれども、買ふこと能はざるものなり。見よ、此處に吾人の前に、自由なる藝術を立派に開拓したる人々の肖像あり。歐洲到る處に於て、予は

彼等の半身像を觀たり然れども手は未だ會て、一生涯を貨殖に捧げたる人の名譽を表彰する爲めに建てられたる肖像を見ざるなり」と。

富と幸福とは必然の關係を有せず時としては幸福は富と反比例するものなりと謂ふを得べし。通常人の一生涯中にて最も幸福なる時期は貧と戦ひ漸次に之を打勝ちつゝある間なり。他の爲めに我慾を制すること、未來の獨立を期して用を節し財を貯ふること、日々の麵包の爲めに働きながら精神の修養を怠らざること、智識及び徳性の練磨に力むること、家庭をより多く幸福に之を大にしては社會に一層有益ならんと心掛くることは蓋し其時なり。エディンバールの主筆ウキリアム・チェンバース其往時を談じて曰く『予は當時を追想する毎に愉快を禁じ得ず然して最早昔を今になす由もなきを恨みとす。蓋し予は囊中唯六片あるのみにてエディンバールの一下宿屋の屋根部屋にて苦學せし當時に於て今日善美を盡せる各室の中央に坐する時よりも一層大なる愉快を得たればなり』と。

人生の如何なる境遇にも補償あるものなり。貧富の運の懸隔は世人の想

像するほど大ならず。富者は屢々其特權に對して重税を拂はざるべからず。彼は其財産に懸念すること一方ならず。彼は強奪の犠牲たり。彼は欺かれ易く。世界の人の放つ矢表に立てるものなり。嘆願者は其身邊に蟻集して彼の財布は吸取らるべし。ヨークシアの俗言にも云ふ如く、人は金満家となれば忽ち其錢抜け出づ可し。又若し相場に手を出せば富豪の財産は直ちに飛び去るべし。彼は挽回策を講すべけれども其精力は相場の變動の爲めに消耗すべし。故に不眠症は金満家の持病なり。損得の思想は彼をして不眠ならしむ。彼は晝夜を分たず眠らざるなり。腦裡の貨財は不安と心配とに満てるものなり。

金満家は、食ひ過ぎ又は飲み過ぎるものなり。而して彼は痛風患者なり。今足の指尖に一個の螺旋を着けたる人ありと假定せよ。其螺旋を骨節の邊まで動かして行きて螺旋を緊むれば其人大に苦しむべし。是れ即ち痛風なり。サイデンハムの言ひけん如く、痛風は他の病氣と異なりて貧者よりは富者、愚人よりは賢人を多く殺すものなり。英邁の君主海陸軍の名將、大哲學者にし

て之が爲めに斃されたるものあり。是に依りて之を觀るも自然が不偏不黨公平無私なること明かにして、自然は一方に寵幸するものを他方に於て虐ぐなり。又金満家は食物を以て満腹することを得べきも、其食慾を失ふ然るに貧者には食物の嗜好なし。嘗て一乞丐あり、空腹なればとて、一富豪の憐みを乞ふ。富豪嘆じて曰く、「何、空腹なりとや、羨まじき哉」と。「一日一志にて生活し、而して其志を儲けよ」とは、アベルネシーが富豪を戒めたる名言なり。ヨルク侯嘗て身體の健康法を問ふ。アベルネシー答へて曰く、「供給を絶つ可し。さらば敵は直ちに城下を退却せん」と感ずること少なく、考ふることも稀なる。労働者は、駝鳥の如き消化器を有す。然るに労働せざる人は、絶えず胃を心配して、一口毎に食物に注意するものなり。勤勉と不消化とは併行するものにあらず。

世人多くは富豪の財産を羨望垂涎す。されど希くはそを得るの危険を冒す。勿れ、メンチック侯の巴里に在る頃、一舊友の來り訪うて久瀾を叙する者あり。其人、邸宅、器具、庭園等の壯麗華美なるを見て目を側て、侯彼の顔に妬

心の色あるを窺ひ、卒爾として曰く、「二條件を附せば、足下は此處に在る一切のもの、を所有することを得べし。」客問うて曰く、「如何なる條件なるか。」侯答へて曰く、「足下二十歩の彼方に起立すべし、而して手をして銃を以て、足下を狙撃すること百回ならしめよ。」客曰く、「休めよ、手は斯の如き代價を以て、足下の申込に應じ難し。」元帥撫然として曰く、「然るか、足下の眼前に在る一切のものを得るまで、手は十歩より遠からざる距離より發射せる、一千發以上の彈丸に身を曝したるなり」と。

マルボロウ侯は死地に入ること屢々なりき。彼は富豪となりて、浪費すべく子孫に百五十万圓を貽せり。彼は各裔を以て世に聞ゆ。嘗て、ブレンハイムの戦争前、ユウゼリン公と軍議しける時、其天幕内に、四本の蠟燭を點したるを見て、其從者を罵倒したりと云ふ。スウキフト侯を評して曰く、「彼は何れの戦場にも決して其行李を失ふことあらざりしや、歴然たり」と。されど、こは、偶々以て其名將の器たるを證する所以なり。侯病みて、パッサに在る時、六片を好善する爲めに、態々旅舎を出て徒歩して家に歸りたりと云ふ。然し是れ

是を運動の爲めに徒歩したりとせば決して答むべきにあらず彼が一兵士
 に二千磅を與へて其の勞を慰めしことあるは世人の普く知る所なり。ボ
 リンブローク嘗てマルボロー侯を追懐し其弱點の一に想到せる時嘆じて
 曰く「彼は一大英雄なりされば予は其弱點をも打忘るゝばかりなり」と
 貧は恥づべき者にあらず。清貧は古來屢々讚美せられたり。若し人にして
 惡心を起さず金錢の爲めに身を賣ることなく不義の行爲あらざれば彼の
 貧は最も尙ぶべきものなり。能く費用を辨じ且つ多少貯金し得る人は貧な
 りと謂ふべからず。現金にて買物を整ふる人は貧者に非ずして富者なり。彼
 は安逸を貪る紳士が借財を作りて仕立屋靴屋肉屋等に借るよりも遙に幸
 福なる境遇に在るなり。モンテスキウ曰く人は所有物無きが故に貧ならず
 然れども働くことを欲せず或は働くこと能はざる時は貧なりと。仕事に堪
 へ仕事を好む人は唯坐食して千金を守る人よりも遙に優れり。
 貧ほど人の才智を銳利ならしむる者なし。故に偉人は多く身を卑賤より
 起せる者なり。貧窮は屢々人の徳を純化し堅固ならしむ勇氣ある人に取り

て困難なる仕事は通常最も愉快なるものなり。是を東西古今の史に徴する
 に剛勇誠實義氣に富める人は富者よりも貧者の側に多し。而して最大人物
 は屢々極貧の人なり。古聖曰く神は貧を作りたれども禍を作らずと。而して
 此二者の間に一大徑庭あるは確かなる事なり。清貧は尊敬すべしと雖も不
 運は卑しむべし。蓋し後者は多く不品行乃至逸樂放蕩の結果なればなり。貧
 は能く之に堪ふる人に取りて恥辱にあらず。然れども乞食の杖を一たび握
 りて温かく感じたる人は決して善を爲すことなく唯惡行を重ねるのみ。
 貧者は往々にして人間中の最大幸福者なることあり。富豪よりも更に遙
 に幸福なり。然し彼等の境遇は羨望するに足ると雖も何人も其境遇になる
 ことを欲せざるなり。モリアの談に十二分に満足したる東洋の一専制君主
 あり。臣下の一人に命じて世界第一の幸福者を索めしむ。使者は上命を畏み
 て普く諸國を遍歴し遂に一人を得。直ちに之を捉へ其下衣を剝ぎ取りて天
 覽に供せんとす。彼が発見したる世界第一の幸福なる者は一愛蘭土人なり
 き。然るに使者が進み寄りて彼を捉へ衣服を剝がんとせしに。彼は身に一枚

の正衣をも着し居らざることを發見せしと云ふ。

アガリの分前は、疑ひもなく最も良きものなり。即ち曰く、『予より虚榮と虚言とを遠ざけよ。予に貧乏も財産をも與ふること勿れ。適宜なる食物を以て予を養へよ』と。幸福の基たる性質の不均なる分配は、富の不均なる分配よりも遙に、必要なりダゲイッド・ヒカーム曰く、足るを知ると云ふ美性は、少なくとも、年収入一千磅の價ありと。モンテレーヌも亦財産の甚だ特むに足らざる所以を道破したり。人間の善悪は、財産の多寡に依るものにあらざるなり。靈の力は、富の力よりも甚だ強くして、幸不幸の境遇の岐る、唯一の原因なり。

慈善

英國は博愛を以て名ある國なり。キソ一曰く、各種の罹災民救助の爲めに、義捐金募集せらる、時、外國人は、我富力の大なるに驚き、其使用法を嘆美するも、我國にては、其れほどとは思ひ居らざるなりと。觀光の外客よりは、觀察力稍々深き我國の博愛家は、義捐金の効果に關して見る所を異にせり。慈善が果して純然たる良果を生ずるや否は、大問題なり。若し果して、慈善が能く

貧民の救助發展を全うするを得ば、倫敦は今日世界第一の幸福なる市なるべき筈なり。何となれば、倫敦に於て、慈善事業に費さるる金額は、一年約三百万磅にして、其恩恵に浴する者は、倫敦市全人口の三分の一なればなり。

慈善の爲めに、義捐金を募集することは極めて容易なり。其報告書は常に此事實を明證す。富豪は有力者に寄附金を勸誘せらるれば、一言の下に之れに應じ、片時の猶豫あらず、之れを爲すは一の宗教的義務なりと思へるなり。然れども、輕卒に金錢を與ふる事、即ち其使用法を考へずして、漫りに金錢を與ふる事は、屢々一大弊害なり。眞の慈善は、金錢の施與にあらず、又彼此區別なく、貧民に與へたる慈善的恩恵は、彼等の自尊心と徳義とを打破するに過ぎざるなり。貧民社會に惡風を生じ、依頼心を助成する底の慈善の種類多し。

世人或は、一年三百万磅は、倫敦市に起る所の一切の災害を救助するに充分なりと思考するならん。然れども、事實に於て、其災害は年々増加しつゝあるなり。慈善の爲めに費す所の金が、其救助すべき災害を作るにはあらざるか、又救助を誤りて餘弊を生ぜしむるにはあらざるか、無教育安逸の徒は、勞

せずして坐食するの望あらば、決して生存競争の爲めに奮發することあらざるべし。慈善が勤儉の賜もの一切を獻ぜんとす、誰か果して勤儉ならんと欲せんや、勞せずして勤勉の利益愉快及び報酬を得るは、精力と獨立心とを根本的に打破する所以にあらざるなきか、貧は慈善を請求する唯一の理由なりとは、放恣遊蕩及び人生零落の素因に、人を誘ふものにあらざる無さを得んや。

先登第一に救助せらるゝ者は、自奮健闘の精神なき厄介者なり。人間の屑に屬する者が、安樂なる身となりて、却つて他の情けに縋るを屑しとせざる底の勤勉、獨立、自助の人が、怠け者保護費を分擔せざるべからざる奇觀を呈す。慈善は、社會の最も腐敗墮落せる部分にまで其手を擴げたり。而して健闘的の正直なる貧民を索めて之を救助することなし。故にカーライルも曰く、『あゝ、我が奇怪なる博愛家よ、實質の尙ほ響ある間は我關せず焉とし、自由に之を伸縮して、遂に廢物となし、腐敗せしめ、猶ほ飽き足らずして之を強奪し、然る後、圖々しくも、今吾人をして、之が爲めに或る善を爲さしめよ』と言はん。

とは」と。

唯、與ふるに過ぎざる慈善は無益なる寛容なり、否、往々にして弊害なり、單に金錢を與ふる事は、決して博愛の任務を盡すものにあらず。或る人曰く、『道徳家の犯罪、宗教家の瀆神、賢人の痴態は、博愛家の殘忍よりは甚しからず。此世に於て學者の一大任務は、慈善家の盡力を中和することなり』と。

リットン卿曰く、『博愛は、餘り屢々社會の姑息、偷安及び惡弊を生ぜり。そは、所謂偽善なり。同情の缺乏なり。斯の如き是非の顛倒は、個人の誤解、否、國民の徳義にさへも誤解を生ぜしむべし。慈善は人情の極致たる感情の一なり。換言すれば、貴族的感情なり。最も制し難き惡徳、即ち男女兩性の淫事を許して、最も行ひ易き美德、即ち慈善を獎勵したるマホメットは、甚だ賢なりと謂ふ可し』と。

倫敦の宗教家中には、慈善は宗教の弘布を妨害すと唱道する者あり。ストン曰く、『一方の手に聖書を携へ、他方の手には麵包も、毛布も一志も携へざる人は、貧民に歡迎せられざる訪問者なり。而して、こは異しむに足らず。慈善的

救助事業の流行に依りて、彼等は此邪心を養成し、其利己的希望なることを知らざるなり。用意の一大要訣なることを學ばず、行爲と境遇との間に必然の關係あることを曉らずして、彼等は此偽善に依りて、貧窮は直ちに以て救助を請求するに足るものなりと教へられぬ。彼等は斯くて滔々として不注意、不義、誦詐、虚飾に流れたり」と。

博愛と慈善會

眞の博愛家は災難、依頼及び缺乏の防備に努力する人にして、特に好んで自から助くる貧人を助くる人を然りとす。聖教傳道婦人協會に多とす可きは即ち此大抱負なり。彼等は倫敦市寺區の住民と親密に交通し、種々の方法を以て彼等の救助に盡力せり。然れども、彼等は漫りに金錢を施與せず、其根本目的は自から助くる者を助け、又彼等をして自から助くることを得ることを自覺せしむるに在り。到る處博愛の餘地あり、而して貴婦人が此高尚なる事業の爲めに活動せるは、最も悦ぶべき事と謂ふ可し。

此協會の外に、近年博愛主義を標榜して創立せられたる慈善會枚舉に遑あらず。職工の住居改良を目的とせるものあり、浴場及び洗濯場の設備を主

富人の遺産

眼とせるあり、或は労働者、水夫、人足の住處、建築を目的とせるもの、或は労働社會勤儉貯蓄の風を奨励するもの、或は労働社會の智識啓發を計るもの等は、其主なるものなり。此等は貧民の獨立心を打破することなく、能く自から助くる者を助くるが故に、大に多とすべきものなり。彼等は社會狀態の改善に任ぜり。故に彼等は最も高尚なる形に於ける博愛の體現にして、其結果は常に良好なり。

富者は死を見て、其財産に腐心すること、餘りに甚し。若し彼等獨身にして相續者なしとせんか、彼等は其全生涯中に貯蓄せる財産の處分法に非常なる困難を感ず。彼等は遺言状を作製して、何人かに其遺産を與へざる可からざるなり。昔の富者は、其靈魂の供養料として遺産を寺に寄進したり。今日尙ほ之を學ぶ者恐らく多からん。或る者は慈善院を建て、或る者は慈惠病院を起せり。或は遺産を貧民に分配し、或は同性又は同業の病者に分つものあり。倫敦近在の一宗教家の妻君曰く、「此等の施物は無數の弊害を作りつゝあり、彼等は非常なる速度を以て、教會管轄區の住民を困窮に陥れつゝあるな

り』と後、久しからずして、ベッドフォード市は、富者が貧民に貽したる恩惠の爲めに、全然廢敗墮落を極むるに至りぬ。坐食の徒に、錢を與ふれば、彼等は直ちに、公然そを請求するの權利あるが如く、心得るに至らん。是れ即ち彼等をして、豫め未來を慮り、商業の失敗、或は人生不慮の災難に備ふるの用意なからしむる所以にして、實に獨立心を害するのみならず、亦徳義を打破するものなり。

慈善院設立に、富人の遺産を寄附せし額甚だ大なり。蓋し彼等は善を爲さんと期せしものなれども、却つて多くの場合は不善に終りぬ。彼等の慈善は畢竟唯仁愛に過ぎざるなり。彼等は勞働社會及び中流社會の獨立心を滅ぼせり。吾人は坐して慈善を受くることを得べし。吾人は爲す事なくして醫藥を得べし。吾人は小供の教育費を要せず、何を働くを須るんや、焉んぞ貯金するの要あらんや』とは、所謂慈善が教ふる所のものなり。所謂慈善會なるものは、一種の體裁よき貧民院となり、働くよりも乞食する方優れりとの學課を教ふる所なり。

スチブン
ジラルド

米國の富豪スチブンジラルドの遺業は、他と自から異を異にせり。ジラルドは、佛國ポルドウの人なり。幼にして父母を失ひ、一汽船のボーイとなりて、十一二歳の頃初めて北亞米利加に渡航せり。固より教育を受けざるが故に、殆ど眼に一丁字無かりしが、勤勞を意とせず、能く働き能く貯へければ、久しからずして、一商店の主人となりぬ。紐育市ウォーター街に住める頃、少女ポーリーラムと相見て、互に相思の海を渡り、紅情綠意を談じ、戀々の情を寄せぬ。少女の父は彼等の結婚を拒みしが、ジラルドは眷戀の情を絶つこと能はず。堅忍持久、遂に父の心を動かして、ポーリーラムと天下晴れての夫婦となれり。然るに、此結婚は極めて不幸なるものなりき。ポーリーラムは妻として彼に同情を有せざりしかば、ジラルドは心頗る平ならず、煩悶の餘り再び海上の人となり、四十歳にして、一艘の單桅船の所有主となり、紐育、フィラデルフィア及びニューオルレアンス間の沿岸通商に従事したり。

其後フィラデルフィアに居をトシ、商人となり、富豪たらんと志を抱きて、貨殖に努め、極端なる節儉主義を採り、金儲けとならば如何なる仕事をも

辭せず、人生の快樂に對して、堅く心に錠をゑろしたり。金錢の愛惜心は全く其精神を占領したるが如き觀ありき。彼の生涯は不斷的勞働の一例なり。記憶せよ、ジラルドは家庭に於て不幸の人なりし事を、若し良妻の内助を得たりしならんには、其天性は醇化せられしならん。彼は妻と共に面白からず、十星霜を送りしが、彼女は遂に發狂して、ペンシルヴァニア病院に在ること二十年、遂に死せり。

されど、ジラルドは無情、冷酷なる人にて、あらざりき。彼の胸底には、人情の深き暗流ありたり。西曆千七百九十三年、黃熱病流行して、其勢猖獗を極むるや、彼の美性は俄然として現はれぬ。病毒の激烈なる、死者既に數千人に達し、人皆怕れて、避病院の患者を看護せんとする者あらざりき。患者に近づけば、必ず傳染を免れずと考へたるなり。

富には、壓制才に略ふ力なく、魅する美もなし、

されど、其怒りに遇へば、何人も等しく死するものぞかし。

あゝ、獨り、友も從者もなき貧しき人のみ、

逃れて、宿無き者の家なる慈善院へぞ死に行くなれ。

此時に方りて、ジラルドは其慘狀を傍觀するに忍びず、業務を抛ち、奮然として公立病院管理の難局に當れり。彼は協力者としてピーター・ヘルムを得たり。ジラルドが事務の才は、直ちに發揮せられぬ。整理の才非凡なりければ、彼が仕事の結果は、忽ち世人の注目を引きたり。紊亂せるもの悉く整理せられ、汚穢は一變して清潔となり、快刀一閃亂麻を斷つが如く、無用の冗費を省き、滯滞せるもの着々として拂り行きぬ。かくて事務の整理成るや、彼は苦める患者を看護し、將に死せんとせるを慰め、病死者を手厚く葬りぬ。久しからずして、病毒遂に撲滅し、ジラルドとヘルムとは、各々其家業に復せり。

フキラデルフキア貧民窟探検家の記に次の如き一節あり、『ステブン・ジラルドとピーター・ヘルムの二氏は、病院の管理者に適材を得ざるが故に、病勢益々猖獗を極むる慘狀を見るに忍びず、義憤の餘り、自ら起ちて獻身的に其局に當り、銳意盡瘁の結果、名狀しがたき驚嘆と感謝とを博せり』と。

ジラルドが勤儉の結果は、フキラデルフキア市に遊ぶ者の齊しく認むる所なり。臺を列べて簇り立てる宏壯美麗なる邸宅是れなり。中にも最も人の

注目に値ひするものは、ジラルド大學の壯大なる大理石館なり、彼は其遺産の大部分を公益事業の爲に寄附したり、而して其主なるものは圖書館及び孤兒院の設立維持なり、彼が殊の外に孤兒に至大至深の同情を寄せたるは、其疾く父母を失ひて、天外万里の異域に流浪し、有らゆる辛酸を嘗めたるに因るならん、同大學内に一の特別室あり、ジョージ・ドウソンの記に曰ふ、『ジラルドは、素と彼の書籍及び記録類を保存する爲めに、特別に適當なる一室を設けたりしが、遺族の深き孝心と尊敬心とに依りて、此質素なる人に關係ある總ての物を集めて此室内に陳列せり、即ち彼の弗箱（まぼこ）あり、本箱あり、二輪馬車あり、脚絆あり、寫眞あり、肖像あり、食器あり、何れも故人の質素勤儉を語るものなり』

トーマス
ガイ

倫敦に於ける慈善院の大なるものの一は、出版商トーマス・ガイの設立したる、ガイ慈善院なり、彼は世に守錢奴と呼ばれたる人なりき、確かに彼は勤儉なる貨殖家なりしなり、ガイ慈善院の如き基礎は、勤儉にあらざれば、決して成立せざるべし、斯の如き事業を起す人は、公益の爲めに私慾を制する人

ならざるべからず、慈善事業は、トーマス・ガイが年來の素志なりしが如し、彼は最初、タムウァースに救貧院を建て、十四名の貧民を收容し、各人に年金を給與し、且つ一圖書館を附屬せしめたり、彼がタムウァースに遊學中、其地の餓死に迫り凍死に瀕せる菜色の民を日繋したるは、疑ひなき所にして、此救貧院は彼が一片の義侠心に端緒を開きたるものなり、其頃彼は倫敦一出版書肆なりき、されど、ガイは出版よりも、寧ろ、海南株式會社の株式賣買に依りて、其財産を得たるなり、會社が破綻を生じたる時、ガイには一枚の持株もなかりしかば、畢竟彼は僥倖に數千万磅の巨利を得たる理なり、故に、彼は此利得金を以て、主に其姓名を冠せる慈善院の設立に資し、千七百二十四年に落成式を擧げ、其年を以て不歸の客となれり。

慈善教育

蘇國の慈善家は、多くは、貧民教育の事業に、其遺産を寄附せし人なり、其端を啓きし者は、ゼームス第一世の御用鍛冶ジョージ・ヘリオットが、百八十名の貧兒の養育教育を目的として、エディンバーに設立したる、ヘリオット慈善院なり、然るに、エディンバーの新市街は、重もにヘリオットの所有地なり

し結果慈善院の基本財産も自から増加せしかば、其事業も大に擴張せられ、今日にては、同市の少年男女が、無料にて教育せらるゝ者實に四千人の多きに達せり。此他同市には、ジョー・ジ・ワットソン慈善院、ジョン・ワットソン慈善院、孤兒院、二個の「女子慈善院」、スチュワート慈善院及び「フェットレス大學」新設あり。皆貧しき少年男女の普通教育及び高等教育を目的とせるものなり。エディンバーは教育慈善市とも稱すべきか。又セント・アンドリュースには、故神學博士ジョン・マクラットの創立したる「マドラス大學」あり。ドラー・イン・スチチュエーションはジョン・マクラットの創立する所にして、デイツク・ベクエストはアパーデン、バンフ及びモレ地方の宗教學校及び教師の品性境遇改良を主眼とするものなり。後者は最も有益なるものにして、公立學校卒業者の品性を高めぬ。而して其結果は、ケンブリッヂ大學に於て屢々實見せられ、各分科大學の優等生は、北部地方出身學生の占むる所なり。

英國の慈善家は、近時此方針に傾きたり。マンチエスター市の「オーウエン大學」、リザア・ブールの「ブラウン圖書館及び同博物館」、工學獎勵の爲めに、毎

年三十名の學生に、百磅づゝの學資を貸與する「ホイットウァー」ス獎學資金、及び青年に實用的學科を教育する目的を以て、サア・ジョン・ア・メーソンの創立したる「パーミンハム」の専門學校の如きは、其著名なるものにして、予輩は此種の慈善が續々設備せられんことを望むものなり。凡そ人は、其資産を高尚なる事業に用ひずして、徒らに墓下の土と化し、墓邊の雜草と共に枯れ果つるが如きことあるべからず。慈善は生前中爲し得るものなり。厚意は何時にても實行し得らるべきものなり。

イロガア
の慈善

倫敦の大慈善家中、米國の銀行家「ビーボデイ」の名を忘るべからず。其事業を詳述せば、優に一冊子を爲すべしと雖も、予輩は今之を略述して一節内に約めざるべからず。彼は確かに、倫敦勞働社會の家庭なき境遇に着眼したる率先者なり。地上及び地下鐵道の敷設延長、新道路の開通、市區改正、官衙公署會社の新設等は、貧民の住所を迫害し、彼等は家を失うて行くべき所を知らざりき。彼等は蠢々として群居し、各種の流行病を發生せしめたり。此弊害を救治せんが爲め起れる會社組合は、或る程度まで其功を奏したり。之に先鞭

を着けたる人は、サア、シドネー、ウォー、ター、ローにして、多くの後継者を有したりしが、ピーボデイが、倫敦の貧民に天晴なる恩恵を遺せしまでは、見るべき奏功あらざりき。彼の委託人は、既に倫敦の各方面に、労働者の住處を建築し、次第に擴張せらるべき計畫あり。こは實に労働者住居の模範なり。就いて之を見るに、清潔便利なる家屋にして、飲酒の惡癖を矯め、道德を進めたること著るし。ピーボデイの志は是を以て、直接に貧民の情態を改良し、其愉快を増進せしむるにありければ、其奏功を現在に求めずして、之を未來に期したり。其委託人が、鞠躬如として、氏の遺志を遂行するに力むるは、亦大に多とすべきなり。

慈善家

此等慈善家の素性を洗へば、總て身を卑賤より起せし人なり。サア、ジョセフ、ホイットウォースは、金屬滑削器の發明者クレメントと共に、サウスウアー、クの手間人足なりき。サア、ジョシア、メーソンは、青物屋、麵包屋の手間職、靴屋、毛氈職工、玉工、延鐵輪製造。此職業にて彼は初めて一千磅の資産を得たり。鐵筆製造、鎔銅匠、電氣鍍金商に逐次轉業したる人にして、電氣鍍金業に成功

して、巨万の財産家となりたり。ピーボデイは、米國の銀行手代より、漸次立身して、倫敦の大銀行家と成りたる人なり。彼等の慈善は、畢竟、克己、勤勉、實直、節儉の結果に他ならず。

慈善は猶ほ花の如し、常に果實を結ぶとは限らざるなり。慈善事業の計畫は、甚だ容易なれども、其成就することは、頗る困難なり。予輩も亦理想的鐵道工夫住居を計畫せしが、障礙ありて中止したることあり。英國の鐵道及び造船所を作りたる工夫は、甚だ勤勉なりと雖も、亦甚だ財布の口に縮りなき人間なり。彼等は正直なる男なれども、時に亦醉漢なり。彼等は其仕事を成就する爲めには、大なる危険を恐れざるなり。彼等の中には、工事中意外の大負傷をなして、一生不具となる者少なからず。一例を擧ぐれば、マンチェスター、エフキールド、リンカーンシャー鐵道工事中、重傷二十二件、火傷、爆裂、挫傷、脱骨等の輕傷七十四件に達せり。爆裂の爲めに兩眼を失ひたる者あり、手を失ひたる者あり、指を失ひ、手を失ひ、或は足を失うて、労働に堪へざる者極めて多し。鐵道工夫の危険を冒す事情を見て、既に故人となりたる一大工事受負

業者は、彼等の老後を安樂ならしむる方法を講じたることあり、當時其人の友人たるエポラル氏來り、予に告げて曰く、「予は頃日、或る工事受負業者を訪問したり。其人は、屈指の富豪なるが、鐵道工夫の住所設立に就きて、足下の助力を得んことを望み居れり。足下は鐵道の工事受負業者及び技師が多くは莫大の利益を得たることを知れるならん。彼等の或る者は既に數百萬磅の財産を作りたり。さて、我友人たる受負業者は、頃日路傍の溝の中に一人の瘦せ衰へたる貧しき老人の倒れ居るを見て、之を扶け、其姓名を尋ね、問うて曰く、

「一體何うしたのです？」

「ハイ、御覽の通りで」と答ふ。

「何をする意でした？」

「死ぬる覺悟でゐいます。もう私には仕事が出来ませんから。」

「何故、救貧院へは行かない。何とか爲て呉れるだらう。」

「いえ、救貧院へ参りましても、駄目でゐいます。死ぬるなら、一層の事、青天井

の下で死にたいと思ひます。」

這般の自殺を謀りたる老人は、もと彼に備はれ居たる工夫の一人なること分明せり。老人は多年彼及び他の受負業者の爲めに、勞働したりしが、彼等が巨万の財産家となりしに引變へて、彼等の爲めに働きたる彼は、水死を謀るまでに、零落を極めたるなり。我工事受負業者は大に心を動かしぬ。是に於て、彼は他にも猶ほ同一の運命に陥れる工夫必ず多かるべきを想ひ、浩嘆を發するを禁じ得ざりき。未だ幾何もあらざるに、彼は病に冒されぬ。而して病間工夫の救助法に就きて種々案じ煩ひける末、遂に工夫住居の設立を思ひ付きたり。而して彼は其創立事務に就きて足下の助力を請へるなり」と。

予輩は其志に感じ、直ちに賛成の意を表し、微力を盡さんことを快諾したり。然るに、多分賛成を表して寄附金の募集に應ずるならんと豫想したる有力者は、意外にも冷淡なりければ、其設立の到底見込なきは火を賭るよりも明かとなれり。勿論種々の口實なきにしもあらざりき。或は曰く、「鐵道工夫は、最も贅澤なる勞働者なり。儲けるだけは、費ひ果さねば氣のすまぬと云ふ代

物なり。彼等は麥酒、ウイスキー、三鞭酒醜業婦に現を抜かして、財布の紐を弛む。投水して自殺するは自業自得なり。心懸けだに善ければ獨力にて愉快なる住所を建つる事左まで難きにあらず。焉んぞ無縁の我等が、彼等の老後まで慮りて他の勞働者よりも、特別に彼等にのみ厚くするを要せんや。救貧院あり、其處に入るれば即ち足れり。曰く何、曰く何と。病狗を打つべき棒を發見することは容易なり。而して主唱者たる人も、病癒えて後は、極めて冷淡言を左右に託して出金を拒みしかば、計畫は全く水泡に歸したり。

悪魔は病みぬ、悪魔は聖人たらんとせり。
悪魔の病癒えぬ、悪魔は元の悪魔なり。

第十五章

健全なる家庭

文明の最も其き保障は住所なり。

サスレーリ

清潔は貧民の美德なり。

英國の俚諺

健康は萬能なり。

ジュリアス・メノチウス

徳は汚穢不潔と長く同居せず。

ラムフォールド伯

人の爲めに有益ならんとして、待てるもの意外に多しと雖も、大抵人は病に罹りて顔色憔悴形容枯槁する時に方り、大に役立つべきものを無暗に踏みにぢるものなり。

ジョーシ・ハーメイト

語に曰く、健康は富なりと、實に富も健康なければ、半文錢の價値なきものなり。精神並に身體の勞働に依りて生活するものは、健康を最も貴重なるものとして注意す。健康を缺くときは、人生は甚だ不愉快なるものなり。人體は

天の成せる構造上、快樂を以て、人生の最大目的の一とせり。人體の組織構造及び官能は、能く此目的に適合せり。

人間五感の作用は快樂的なり。されば、人間官能の總括なる健康よりも愉快なるもの之あらざる可し。ドクトル、サウスウード、スミス曰く、「快樂は、人生の極致たるのみならず、亦宇宙の法則に抵觸せざる、人生唯一の要件なり。人間は、幸福なれば、幸福なるほど長命にして、苦勞するほど短命なり。快樂の増進は、即ち長命延壽法なり。苦痛を加ふるは、即ち生命を絶つ所以なり。」

健全なる生存

幸福は健全なる生存の法則にして、苦痛と不幸とは其例外の事情なり。されど、苦痛は必ずしも有害ならずして、却つて有益なる訓誡なり。苦痛は吾人が、或る規則を犯し、或る法則を破り、或る自然の職分を怠りしことを、吾人に告ぐるものなり。されば、苦痛は吾人を鞭撻して、吾人の生活状態を改善せしむる警戒者なりと謂ふ可く、吾人を諫めて曰く、「自然に歸り、其法則を考へ、以て幸福を回收せよ」と。故に、一見甚だ奇恠なるが如くなれども、苦痛は、人間の物質的幸福の一要件にして、死が人生快樂の一要件なることは、ドクトル、ト

ウマス、ブラウンも既に之を説けり。

故に、人々が物質的の幸福を樂むことは、天理に適へり。此等の理を發見考究する爲めに、人間は、理性の天賦を有せるなり。人若し、此天賦の運用を誤り、自然の理に従はざれば、苦痛と疾病とを招くは、其必然の結果なり。

人は勝手に天則に背きて自ら苦しむ。人は怠惰にして過食し、以て消化不良、卒中の刑罰を受く。人は飲酒の度を過して、自ら酒脹れに脹れ、手足震へ、衰弱す。彼の食慾は減じ、體力は衰へ、身體は異狀を呈し、大酒家に特有なる種々の病氣に罹るなり。

社會の苦しむことも之と異なる所なし。社會は排水の不良も、街路の不潔をも、忽緒に附して顧みず。幾万人の老若男女は、不潔なる場所に群居し、毒氣の爲めに其健康を害するを知らず。熱病、コレラ病、ペスト等の流行病を發生す。流行病は、貧民の不幸なる九尺二間の長屋より發生し、次第に蔓延して、富者の愉快なる家庭に侵入し、到る處に死と荒廢とを運び來る。斯くの如き場合に生ずる不幸と困難とは、人に充分之を豫防するに足る知識ある限り、自

ら故意に招くものなりと謂はざるべからず。人間が多數群集するときは、大氣は、絶えず流通交換せしめざれば、不潔有害となるものなり。流通をよくせざれば、空氣は主に呼吸の爲めに炭酸瓦斯と變ず。體內より出てたるものは、如何なるものにも再び之を吸入するは有害なるが故に、新鮮なる空氣は最も必要なり。食物の不足は、新鮮なる空氣の缺乏ほど著しき害をなさず。約十四歳の人は、二十四時間内に、約六百立方呎の空氣を要すと云ふ。故に彼若し狹隘なる室内に眠るときは、多少其害を受け、漸次窒息の状態に進むべし。

玻璃製の溜氣器に鼠を入れて其口を塞げば、鼠は漸次窒息して死に至るべし。人間も密閉したる場所内に在りては、之と同じく窒息死に至るものなり。英國の軍隊が、嘗てカルカッタのブラック・ホールにて無慘の横死を遂げたる珍事ありしが、其原因は新鮮なる空氣の缺乏なりき。かくて、或る二三の製造工業市に於ける出生兒の約半分は、五歳前に、新鮮なる空氣の缺乏に因りて死亡する由なり。フンボルトの語りし奇談あり。嘗て一兵士船中に幽閉

せられ、熱病の爲めに將に死せんとす。僚友其狀を憐み、廣々としたる空氣中にて、せめて最後の息を引かしめんとて、彼の病軀を甲板上に運び上げしに、彼は遂に死せず、却つて生命を全うせしと云ふ。即ち新鮮なる空氣に依りて甦りたるなり。

丁年以上の人に及ぼす不潔なる空氣呼吸の最も普通の結果は熱病なり。ドクトル、サウスウッド・スミス曰く、最も苛酷なる市税は熱病税なりと。統計に據れば、リヴァプールに於て、毎年熱病に罹る者七千、其内死亡者は約五百名なり。通常熱病に罹る者は二十歳より三十歳迄の人にして、多くは家族の係累ある人なり。されば、熱病より生ずる死亡は、寡婦と孤兒とを作るが故に、總て大工業地の住民に一大重税を課するものと謂ふも過言にあらざるべし。ドクトル、プレイフェアは、熱心に此問題を研究し、論じて曰く、流行病と死亡とに由りて、ランカシア地方の被る損害總額は、毎年五百万磅に達すと。然れども、こは單に金錢上の損害のみ。其道德的損害に至りては、殆ど計るべからざるものあり。

古の英國詩人の所謂「幸福なる村夫野人」及び「平和なる羊飼ひ」なる者、今果して那邊に在りや。今日彼等は何處にも見出さるゝことなし。近世のストレンフォンとフキリスは、床も張らざる小屋の中にて、一週十二乃至十五志にて生活を營める甚だ貧しき夫婦なり。されど、潺々として流るゝ水邊に、煙を輪に吹く銜煙管の姿、悠々として其日を過ごすストレンフォンよりも、吸はんにも煙草の粉だになく、労働時間甚だ長く、賃金甚だ低廉なる彼は、遙に貧しき者なるにあらずや。ダフニスを見よ。彼は一野人にして、眼に一丁字なく、其妻クロロエは更に無學なりき。

フキネアス・フレッチャーの『羊飼ひの家』と題せる詩に曰く、

おゝ、羊飼ひの身の上こそ、三倍の幸あれ。

大官人の榮華は、やがて下司の不幸なり。

彼の小屋軒低く、いぶせき柴折戸固く鎖ざして、

浮世の榮華に離れて、毀譽の外に立つ。

天が下の亂も、其眼を覺ますに足らず、

日れもす歌ひて、羊を友に。

無垢の羊のごと、思、邪なし。

そが、安らげき生涯、彼を欺き得じ、

限りなき樂み、果てなき幸に満てり。

野面に立てる山毛櫛の木かげ、風涼しく、

暑さをしのぐ假の宿。

浮世の濤の荒きにも乗らず、

逸樂の風にもあたらず、

神慮に叶ひて、樂しく平和に世を渡る。

あゝ、此平和なる羊飼ひ、今果して那邊に在りや。紡績器械は彼を併呑したるにあらざるか。復た斯の如き人を見ずとハリス嬢の浩嘆せるも無理ならざるなり。されど、彼果して往昔に生存したりしや。手輩は、詩人の空想を除けば、甚だ疑ひなきを得ざるなり。

鐵道時代及び衛生改良時代前に在りて、アルケディアン人の牧畜的生活は、一部の趣味ある神仙譚なりき。政治家は永久に、そを退けたり。農夫は適當

なる住家を有せず、唯粗末なる豚小屋の如き所に起臥して清潔及び節制の用意甚だ少なし。家族の最も多人數なるものと雖も、唯寢室と居室との二を備ふるのみにして、時には唯一室なることもあり。所謂居室には、臺所向きの道具洗濯盤、鋤、鍬等の農具及び汚れたる衣服など累々たるなり。寢室は、夫婦、小供等の同寢する處にして、時に遠來の珍客が雜まじることもあり。而して一室には、一個の窓もあらずして、其半葺の屋根より日光の洩れ込こみ代りに、雨天の日は、洵にあさましきものなり。主人は、家庭に愉快を需め難きが故に、自ら飲食店に足を通はし、小兒の養育は遺放やほうしなり。而して淺慮なる女房娘に至りては、甚だ嘆ずべき運命を有せり。

地方の労働者

田舎の事件が、新聞紙上を賑はす問題となること極めて罕なり。是れ蓋し、新聞紙の勢力が猶未だ遠隔なる田舎に及ばざるに因る。されど、吾人は、度々「乞食の巢窟と成る」を豫防せんが爲め、一村悉く破壊せられたる村落あるを耳にせり。國會議員の一人は、嘗て委員會に於て、彼が少壯なる夫婦をして住ましめんが爲めに、二十六軒乃至三十軒を殘して、村を取毀ちたることを自

白したり、逐出されたる者の成果つる状こそ實に淺ましき次第なれ。彼等は殘れる家の主人に泣きつきて、其處に同居するか、然らざれば、救貧院の厄介となるか、或は通常は、自己及び小兒等の仕事を得べき望みある都會に群集するに至るなり。

我國の製造工業熾んなる都市は、全く其資格を缺けるものにして、不潔極まりなく、衛生其宜しきを得ずして、秩序なし。然るに田舎の労働者は、愚かにも都會の不幸を見て、田舎の其れよりも優れりとなし、家庭と仕事とを求めて製造工業の都會に入り込む者、年々増加せり。是れ實に我田園生活の實況を説くには、數卷の冊子を編むに足るの材料あることを證するものなり。

田舎労働者の智力的状態は、其物質的状态と同一程度に在るが如し。西部地方の彼等は、倫敦市の東隅に住せる貧民と文明の程度相同じ。ヘレフォード郡教會の報告に據れば、「我等の教區内には、往古の迷信盛んに行はれ、天變地異に由りて吉凶禍福を卜すること尋常にあらざるなり。月蝕は大吉なりとせられ、或る者は卒かに服藥し、或る者は豚を屠り、門前には木を以て組み

たる十字架建てられ、其位置を動かすことを許さず、除草器は、納屋の中に其舊位置を變ずることあらず、呪禁まじなは中々に信仰せられ、一志イツシにて造りたる結納の指輪は、瘻擊の妙薬にして、驢馬の肩先の毛髪を抜きて小兒の涎掛けに織込みたるものは、又同一の効驗ありと信ぜらる、首を抱ける死人の手は、瘤を取るといふ無教育なる田舎者の間に流行せる迷信は、我等の間に恐慄を生ぜしむ、若し薄倅なる人が突然死するときは、其幽靈を見る者例となれり。』

シドニー・ミスが總て國民は、今日最も開化せる者と雖も、其初期に於ては豚の如き生活をなしたるものにて、萬一古代に、今日の如く衛生講話なるものありしならば、當時の英國の田舎者及び羊飼等の状態は、フレッツチャーの歌ひたるものと甚だ異なりしならんと云ひしは、蓋し適切なる言なり、今日職工すら、サクソン及びノルマン時代の大地主よりは、愉快なる家に住へり、果して然らば、今日百姓の状態は甚だ可ならずとするも、猶ほ彼等の祖先には優れりと謂はざるべからず。

禽獸の生活以上に、人間を高むる第一の方法は、健全なる家庭の設備なり。

家庭は、殊に世界第一の良校にして、小兒が一人前の人間に成る所なり、彼等の品性が善惡の二道に岐る、所なり、又其徳性及び智力を善くも悪しくも育成する所なり、人は、家庭教育に依りて、真正に人情を教へられ、智識を啓發せらるゝものにして、良家庭には、家庭的、高潔と、道德的、生命あり、惡家庭には、個人的汚辱と、道德的、死あり。

學校の教師は、小兒の品性を形づくる上に、極めて微力なる者なり、小兒の品性は、全く家庭に於て、父母兄弟姉妹及び朋友の形づくる所にして、學校教育の良否如何に關せず、學校教育が如何に完全無缺なりとも、生徒が日々放課後に歸るべき家庭にして、不良ならば、學校に於て學ぶ所は何の益にも立たざるなり、品性と性情とは、家庭陶冶の結果なるが故に、若し此等が不良なる物質的及び道德的事情の爲めに打破せらるゝときは、學校の授くる智力的教育は、善よりも寧ろ惡を助成するに傾くべし。

家庭を單に寢食する場所なりと思ふは非なり、自重心を保障し、愉快を保全し、家庭的快樂を樂しむ所なりと見ざるべからず、社會を傷け又辱かしむ

る所の弊害及び罪惡の四分の三は、自重心の勢力之に臨めば、忽ち畏縮するや必せり、家人殊に小兒に有益なる影響感化を與ふる所の幸福なる場所たらんには、家庭は愉快清潔愛情及び聰明の精神を以て満たさるべからず、而して此精神を保障するには、婦徳を備へ、勤勉にして教育ある婦人必ず無かるべからず、家庭の不幸は一に懸かりて婦人の雙肩に在りと謂ふも亦誣言にあらざるなり、國民の進歩は國民の家庭改良に待たざるべからず、而して家庭の改良は婦人の力にのみ是れ依るされば、婦人は如何にして家庭を幸福ならしむべきやを知らざるべからず、既に之を知らざるべからず、則ち教へざるべからざるなり。

故に女子は實生涯に於ける其職分を全うする爲めに、大に教育せざるべからず、而して其教育は人の妻として、人の母として、將た又家婦としての、其未來の地位に就きて重きを置かざる可からず、然るに總ての階級の女子教育は此方針に依らざるが如く、上流社會に於ても尙ほ且つ然り、勞働者社會に在りては、少女は概ね勞働に従事し、上流社會の女子は不急の學問に腐心

不健全なる家庭

しつゝあり、而して其間に在りて、男子は英國未來の妻及び母を、彼等の中より輕卒に拾ひ取るなり。

男子は、女子の才藝を重んぜずして、其家庭が不愉快となる時に在りて、初めて其價値を曉る、男子は、秋波に惱殺せられ、櫻色の豊頬に消魂し、艶なる姿に恍惚として、意馬心猿に狂ひ、眷戀の情に禁へざる時、其戀人が、果して、襟衣の繕ひ、ブツ、チングの料理の出来るものなるや、否を考慮するの餘地を有せざるなり、然るに其熱情も、美人を掌中の玉となして、華燭の典を擧ぐると共に、漸次に冷却し、やがて初めて、女子の才藝は、秋波よりも遙かに價値あるものなることを曉り、而して若し、裁縫と料理との心得なきときは、遂に不幸なる男子及び女子の痛恨となるなり、若し家庭が物質的快樂の實質に缺くるときは、妻は、嬋娟花を欺く美貌を有するに拘はらず、忽ち餘所の花に眺めを奪はれ、遂に、煙花の老は、法律と寺院とが結び合せたる夫婦の間を割かしむるに至る。

實に男子は、家庭の事に關して、甚だ無智なり、若し彼等にして、一瞬間なり

とも家庭の必要を思へば、嬌語喃々たる柳暗花明の地に其足を向くることなかるべし。無智なる男子は同様の無智なる女子を選びて妻となす。而して此等の似た者夫婦は、幾何もなくして子女をまうけ、而かも理義に明るき家庭の人として、充分に彼等を訓練陶冶するの能力なし。是に於て、家庭は家庭にあらずして、單に一個の旅宿たるに過ぎず、又屢々不愉快極まるものとなるなり。

予輩は、嘗て最下級の労働者に就いてのみ言ふにあらず、亦最上級の職工に就いても言ふなり。一週に二磅乃至三磅を儲ける人、即ち教師、或は銀行手代の平均給料以上を儲ける人は、麥酒の酔に陶然として札びらを切ると雖も、一家の家庭を端正ならしむる爲めに半クラウンの銀貨を割くことを惜む者往々これあり、而して其結果を見るに、彼等は自ら腐敗し、家族を墮落せしめ、不潔極まる人間の中に交りて、健康及び禮儀の要素無き家の中に群居す。而かも彼等の拂ふべき家賃は、甚だ少額なりと雖も、彼の手に入る日用品の金額に超過せり。其必然の結果は、自重心の消滅、本然的良智の減少、健康の

衰弱及び早世是れなり。聖人君子と雖も、斯の如き境遇に在るときは、漸次禽獸の心に近づくや必せり。

然れども、斯の如くして蓄積したる貨財、即ち寧ろ家賃を惜む貨殖は、節儉にあらずして、不經濟なり。住居の不良に起因する病氣は、往々仕事の滯滞を來たし、貯蓄銀行、慈善會社を閑散にし、最後に、貧民社會を腐壞して復た拯ふべからざらしむ。中流及び上流社會の損害大なりと雖も、之を、家族の爲めに衛生に適へる都合よき住居を備ふる用意の缺乏より、労働者社會に落下し來る所の損害に比すれば、蓋し同日の談にあらざるなり。大都市に於ける慈善會社の費用の半は、衛生不良の家より生ずる損害金と斷ずるも、恐らく過言にあらざるべし。

健康と飲

更に一層恐るべき惡結果あり。衛生思想の缺乏は、飲酒の一大主因なり。經濟學者カドウィック、嘗て所得の半額をばウキスキに費せる一職工に、大酒の弊害を説きて、諄々諭す所ありたり。此職工は、甚だ思慮ある漢なりしが、答へて曰ふ、『先生請ふ先づ來りて此處に住み給へ、先生も亦必ずウキスキ』

を飲むに至らん』と。レイ氏曰く、『予は暴飲大酔の習慣を以て、全然衛生の缺乏に起因すと言ふ者にあらずと雖も亦不健全、不幸なる家庭——活氣の損失、及び之より生ずる生産的精力の損失及び外物の誘惑を制するに無能力なりとの自覺——は、アルコールの一次的興奮の弊害より、多くの人を免れしむとの結論に到達すべき經驗を有せざるなり。彼等は恰も海員の一時周囲の誘惑に抵抗せしも、遂に力屈して酒に浸り、以て死を早うするが如し』と。辯ずる者或は曰はん、労働者が今日の如き家屋に住み、衛生上甚だ宜しからざるに相當の家賃を支拂はざるべからざるは、餘儀なき事なり。然れども需用供給の原則に従へば、今日供給せる家屋は、家賃の低廉なるが故に、實際最も需用多きものなり。労働者社會にして、衛生思想ありて、不潔なる場所を避け、家賃の安からざるを辭せざれば、家主も亦餘儀なく家屋の構造を改良し、其需用に應ずるに至らん。されば、眞の經濟策は、労働者社會其自身の改良に在りと謂ふべく、先づ其家賃の標準を高くすべし。されば、改良の實大に擧がらん。

予輩は既に資本主が其労働者の需用に應じて著しき改良を圖り、ピーボデノ及び、バーデット・クローツの如き慈善家が、衛生的の家屋建築を鼓舞したる所以を述べたり。されど其結果は、全く労働者社會自身の態度如何に歸せざるべからず、健全なる場所と、健全ならざる場所とに、各々家屋ありとせば、彼等は勿論前者を擇ぶべき筈なり。然るに實際は之に反すること甚だ多し。兩者の間には、恐らく家賃に一週六片シクの差あるが故に、健康の利益を知らざる彼等は、家賃の低廉と云ふ目前の小利に迷うて、健全ならざる家屋を撰ぶ。されど病氣より生ずる藥價、診察料、及び、賃銀の損害は、家賃を儉約したるものに越ゆること遙かなり。彼等の眼中唯家賃ありて、愉快の損失、清潔の缺乏及び不潔なる空氣の呼吸に免るべからざる精神の鬱悶等あらざるなり。

衛生的の家屋

衛生的の家屋と非衛生的の家屋と建築上其費用に大なる差なし。家主に要する所のものは、唯衛生思想と相當の必要品を準備するの親切にして、地面の廣さは二者異なる所なし。煉瓦石及び石灰の量も大同小異にして、新鮮なる空氣は、不潔なる空氣と同價額、光線は無代價なり。

勤儉にして清潔を好む賢婦の管理せる所の健康なる家庭は、愉快にして幸福なる良住所たることを得べく、家庭生活の品位を高むべき一切の關係を有する舞臺たるを得べく、従つて男子も、多くの愉快なる記憶、妻子及び隣人の愛情に充てる聲に依りて、そを愛するに至るべし。斯の如き家庭は、常に常人の起臥する場所としてのみならず、又徳義の修養場、人情の聖殿、暴風雨の避難場、勞働後の安息所、悲哀の慰安、成功の美華、永久の歡樂とも見ることを得べし。

衛生學の普及は大に多とする所なり。其普及せし所以は、唯大學に衛生學を講ずる教授ありて、其卒業生が一般の人民に之を傳へたる迄にて、何の不思議もあらざるなり。衛生學が社會一般に認めらるゝに至りしは、實に軌近の事にして、其國會の緊要なる法令中に包括せらるゝに至りしは、醫學界の勢力に因るにあらずして、一狀師の功なり。

エドウィン・カドウィックは、其時代に於て名聲甚だ揚がらざりき。氏は其時代の最も成功せし精力的の事業家の一人にして、法制土に大なる影響を

エドウィン・カドウィック

與へしと雖も、第四流の平凡なる國會議員ほども、世に其名を知られざるなり。

氏はランカンシアの人にして、マンチエスタの近傍に生れ、主に倫敦に於て教育を受けたり。法律を専攻して、二十六歳の時、インナー・テンブルの學生となれり。其れより、法廷に出入する人となり、日刊新聞記者及び通信員たり。學殖甚だ深からずと雖も、聰明にして不屈不撓の精神あり。故に事に當りて勇往邁進、斃れて後己むの氣概ありたり。

氏は、早くより、一の理想を有したり。其目的とする所善ならば、理想として實に堂々たるものにして、人の生涯に陸離たる異彩を放たしめ、千鈞の重みを加ふるものなりき。彼の理想は、敢て奇抜なるにあらずと雖も、誠實にして堅忍なる精力的の人にして、之に任ぜば、人間の生涯の上に實現するの望みありたり。何をや、衛生思想即ち是れなり。

氏は如何にして其理想を實現したるか予輩は之を略述せざるべからず。内閣書記官モルガン氏は、或る時議會の委員會の席上、中等社會の事情は改

良せられたれども、之が爲めに生命を長くすることあらずとの意を言明したり。こはカドウィック氏の理想に絶對的反對なるが故に、氏は書記官の意見の誤謬を明證せんと欲し、種々の統計を調査せり。氏は其理想と主張とを解明せんが爲めに、煩累を厭はず、實地に就きて研究し、最も人の忽緒に附せる貧民窟を踏査して其材料を蒐めたり。

其研究の結果は、千八百二十八年四月發行の『ウエスミンスター評論』の紙上に發表せられたり。氏は是に依りて、人間の外界の事情は、其健康に關係ある所以、從つて健康は外界の改良によりて改良せらるゝものなる事、人生に不吉なる疾病及び災難は、人に制せられ且つ排除し得らるゝものなる事、種痘の實施、中流下流社會に於ける飲酒の減少、清潔法の改良、醫學の進歩及び市區家屋の構造改良等は、人の生命を長くする所以なることを論じて、縷々數千萬言、考證該博、引例適切にして頗る痛快を極む。簡單に言へば、畢竟モルガン氏の意見は誤れるものなりしなり。今日に在りては、衛生思想一般に普及し、中流以上の社會には長足の進歩を爲せりと雖も、カドウィックが此

問題を解決せし迄は、社會は少しも之に注意を拂はざりしなり。

千八百二十九年、カドウィック氏が『倫敦評論』紙上に發表したる豫防策と題せる一論説を讀みたるセレミー・ベンザム氏時に八十二歳は、大に其説に敬服し、書を介して著者に會見を求め、一見直ちに舊知の如く、千八百三十二年ベンザム氏の易簣するまで、膠膝の交を結ぶに至れり。ベンザム氏は、其行政法を適用して、カドウィックの爲めに、一臂の力を假し、以て春秋に富める氏の生涯を安からしめんと欲し、若しカドウィック氏にして、其理想の躬行實踐を以て畢生の事業とせば、相當なる獨立の地位を與へて後顧の憂ひなからしめんことを約せしが、遂に其實行を見ずして已みたり。

カドウィック氏は、卒業して、千八百三十年十一月辯護士の登録を経たり。氏は時々『ウエスミンスター評論』に書を寄せて、習慣法の實施を唱導しつゝありしが、千八百三十二年、博士サウスウード・スミス氏及びピック氏と共に、其頃ローランド・アシホレー氏及びサッドラー氏の主唱に由りて、天下の輿論を喚起したる勞働問題の調査委員に任ぜられぬ。氏は、排水、給水及び通氣に

關し、且つ職工の健康を害し、生命を短くする病因は、過度の勞働に在りと云ふことに就きて、其所見を委員會の報告書に表明するの機會を得たり。

同年、又英倫及びウェールズに於ける貧民法案の實施に關せる重大なる調査委員會、グレイ氏内閣によりて設けられ、政府は其確證を得んが爲めに、カドウィックを其委員補の一人に任じたり。而して倫敦及びバークシャーは、氏の調査分擔區域に屬したり。其翌年發表したる此調査報告書は、實に報告書と云ふもの、模範にして、事實の精確、分類の明晰なる、多く其比を見ず、最も固陋なる反對黨にまで、多大なる趣味を以て讀まれたり。

カドウィック氏は、事實に於て本問題の首腦たりき。氏の建白は甚だ適切にして、實際的なりしかば、報告書の發表後幾何もあらずして、委員補より進んで委員の列に入れり。而して委員會の報告が千八百三十四年の議會に提出せられて、有名なる貧民法改正案の通過したるは、氏とセニオール氏との功勞に歸せざるべからず。

此法律が近世の條例書中に、最も重要な位置を占むるものなる事は、何

人も反對せざる所なるべし。されど亦、其議定以來、多年人氣を得ざりしこと未だ此法令の如きはあらざるなり。然れども、カドウィック氏は、天下の意向を迎へて、其所信を枉ぐる如き、薄志弱行の徒にあらず。人氣を取るは容易なれども、人氣なき正義を行ふことは難しと謂ふべし。氏は、人氣名望の如き虚榮に汲々として、正義を棄つること、敵履の如き無節操漢にあらざりしなり。

貧民法令の浩瀚なる材料の蒐集整理に忙殺せられつゝある間も、カドウィック氏は、片時も其衛生觀を忘るゝことあらざりき。總て氏の報告は之に基づけり。氏の説に依れば、當時社會に成立せる貧窮の四分の三は、衛生の不行層に起因する疾病の結果なる事明かなり。氏は、勞働社會貧民窟の狀況に對する精密なる視察調査に依りて、熱病、肺病、虎列拉病等の恐るべき病毒の原因を確め、益其衛生觀に強固なる立脚地を得たり。

千八百三十八年の事なりき。一日氏は、貧民法令委員會の事務を執りつゝありしに、ホワイトチャペルユニオンの一吏倉皇として事務室に來り、さも困つたと云はんばかりの顔色にて、恐るべき熱病が、ホワイトチャペルの池

の附近に發生し、其勢頗る猖獗にして、亞細亞虎刺拉を併發するの徵候著明なることを告げたり。是に於て委員長はカドウィック氏の發議を容れ、アルノット、ケイ、サウスウード、スミス氏等數名の博士を擧げて委員となし、其病因及び倫敦市の衛生狀況を調査せしむ。是れ即ち衛生検査の濫觴なり。

其間カドウィック氏は委員の一人として英倫及びウエールズに於ける警察權の組織に關する最良法の立案に熱心從事しつゝありたり。其報告書は、デッケンスの小説を讀むが如く、甚だ趣味多く、明かに貧民窟の生活状態及び風俗習慣に對する氏の觀察眼の燃犀深刻なるを證するものなり。此問題も終局を告げて、委員會解散し、カドウィック氏の其職を免ぜらるゝや、氏は進んで其畢生の大事業たる衛生運動に全力を傾注するに至れり。

千八百三十九年、倫敦の僧正は、カドウィック氏の發起にて、サウスウード、スミス、アルノット及びケイ諸博士の倫敦市衛生狀況検査を擴張して、英倫、ウエールズ全體に及ぼすべしとの意見を上院に建議せり。エディンバーの住民も亦蘇格蘭をも包括すべしと建白したり。是に於て、千八百三十九年八

月、ジョン・ラッセル卿は、勅令を以て、貧民條例局に命ずるに、倫敦市に着手中の衛生調査を、英國全土に及ぼすべきことを以てせり。而してカドウィック氏又擧げられて、全國の調査報告を取捨し、分類綜合するの重任に就けり。第一回の都市衛生報告は、千八百四十二年發表の準備成りたり。こは勿論貧民條例局の公報として發表すべき筈のものなれども、委員委員中には新貧民法令に關し、カドウィック氏と意見を異にせる者ありたり。其報告書は、多くの會社が迷惑を感ずべき事實を指摘せるものから、情實に纏綿して、之を發表するに反對せしかば、カドウィック氏は、自ら個人的に發表するに至りぬ。

此報告及び其他の報告を完成するまでに、由來乾燥無味にして困難なる仕事に、カドウィック氏の盡したる苦心の如何に多大なるやは、實際其局に當りたる人にあらざれば、想像し能はざる所なり。氏が生涯中に手にしたる書類は、幾何の嵩なるべきや、若し之を一纏めに積み上げて、氏に示さば、氏も殆んど絶倒するならん。

氏の衛生報告の發表に由りて英國を通じて刺戟せられたる感覺は尋常ならざりき我近世文明の假面を剝いて其下に隠れたる真相を公然暴露したるは從來未曾有の事なり然れども氏は單に其感覺を挑撥するを以て足れりとせず尙ほ一つの抱負ありて之を追求せずんば已まざりしなり報告も直ちに之を活用するにあらざれば遂に徒勞なり初めより爲さざるに如かざるなり是に於て一の衛生團體組織せられ時の内閣大臣は上院下院の協賛を得て其牛耳を取るに至れり。

其實行上諸般の事を討究せんが爲め千八百四十四年衛生調査委員の任命ありたり委員は立法意見を附したる二種の報告を發表せしが偶々自由貿易論の爲めに時論沸騰して之を顧みる者なく數年の間は微々として成績の見るべきものあらざりき我衛生改良家カドウィック氏は此時委員の一人として熱心に倫敦市の状態を探究せり委員會は三種の報告を發表して倫敦市の排水下水給水に關し詳論する所あり之が爲め輓近種々の緊要なる法令の發布を見るに至れり。

カドウィック氏の理想は千八百四十八年の衛生條例の發布に由りて遂に凱歌を奏し衛生局の新設となり氏も其重要な椅子に就けり爾來衛生局の方針を實施する爲め多くの追加條例發布せられ有益なる調査報告逐次發表せられ例へば農業上に下水の利用傳染病船舶檢疫排水旅館取締法等に關するもの如き是れなり之を要するに所謂衛生運動なるものは一大事實となりて現はれたり而して其是れあるは主として衛生思想の傳道師たるエドウィンカドウィック氏の力なり氏が遂に衛生局の重要な椅子を去りしは事實なりこれは多少他の嫉妬に由ると雖も其因主として氏の剛愎なる性質に在り而して特に區々たる地方官吏の意を迎へざること、公益の爲めに個人の情實を顧みざりしこと、は其動機たりしなり然れども總ての公平無私なる人の如く氏の品性は高かりき兎も角も氏の事業は後世に貽れるものなり。

世に慈善事業を企てたる者多しと雖も氏の慈善事業の如く廣大顯著なるものは予輩の未だ會て見ざる所なり氏は眞の立法家にあらずと雖も當

時の濟々たる立法家よりも、世の木鐸として遙かに一頭地を抜きたり。氏は衛生改良の爲めに天下の輿論を喚起し、又下層社會の爲めに衛生的の改良家屋を建築するの急務なる所以を、世の博愛家に教へたり。されば、ビーボデイ寄寓所、パロネスクイツ寄寓所、其他職工向きの改良家屋建築を目的とせる種々の會社の設立せられたるは、其間接の結果なり。

エドウィン・カドウィック氏は、慈善家中、最も有益最も實際的なりし人の一人にて、クラクソンやハワードと比肩するに足る。氏の勞力は同じく公益的にして、其結果も亦公益的なりと謂ふ可し。

衛生學

衛生學を譯すれば、清潔と云ふ事なり。純良なる空氣と水とは其要素なり。不潔なるものは、直ちに洗滌し去らざるべからず。衛生學は人間の智識中、最も單純明白にして、理會し易きものなり。尋常平凡なるものと一般世人に餘り注意せられざりしは、恐らく此故ならん。室内に空氣の流通を良くし、下水を排除し、家屋と身體とを清潔にするに、何ぞ學問を要せんやと思惟する人尙ほ多かるべし。

不潔の結 果

衛生學は不快なる仕事に相違なし。人體、家屋、道路及び市街の排泄する所の汚物を取扱ふものなればなり。衛生とは次の數語にて包括せらるべし。曰く、汚物あらば直ちに之を去り、清潔にして人間健康の爲めに、新鮮なる空氣と清水との豐饒なる供給あらしめよと。

今一例を大都市の不潔なる市街に取りて言はん。其處には、窒扶斯患者年中殆ど絶え間なし。市街を清潔にし、下水を改良し、純良なる空氣と水とを供給せよ。病毒は忽ち撲滅せん。醫藥を用ひるよりも、遙に効驗あるにあらずや。リト氏の言に徴すれば、大英帝國を通じて、衛生不良に因する所の窒扶斯病に斃るゝ者、毎年五萬人なり。其結果は、此等の五萬人を、其貧民窟裡より拉し來りて、死刑に處すると同じ。世人は一殺人事件に戰慄し、一病死者に驚愕すれども、毎年病死者數萬人あることを、反復説明するに、殆んど馬耳東風の如きは、豈に奇ならずや。豫防敢て困難ならざる窒扶斯病の犠牲となる者の、毎年の數は、ウオタローの戦争に同盟軍の被れる損害の約二倍なり。豈に懼れざる可けんや。身體の健康に不注意なるが爲め、天壽を短かくする者、天

下頗る多し、或る軍醫曰く「窒扶斯は、人が衛生を等閑にするが故に、自ら招く所の天罰なり」と。

不健康の
影響

カドウィック氏は、リヴァプール・マンチエスター、及リーズ等の貧民窟に於て労働者の間に、嘗てハワードが世界の同情に訴へたる當時よりも、貧かに多くの罪惡、不幸、惡弊あるを確めたり。愛蘭の貧民は、大都會の不潔なる裏店に潜伏して、屢々窒扶斯病の襲撃する所となれり。其流行特に甚しきが故に、或る地方にては、此病氣を呼んで「愛蘭熱」と云ふ。其恐るべきは、常に人員の損失のみに止まらず、又此等の衛生の不完全なる地方に最も浩嘆すべきものは、道德の死なり。此等の地方に在りて、風俗の敗壞は常則なり。純潔禮儀作法は地を拂うて殆ど見ることを得ず。言語は野卑にして、醜聞時々刻々に起り、人の平常口にする所は、怠惰、飲酒、淫事を助長する者なり。其婦人小兒に及ぼす影響、想像するに餘りあり。

身體の健康と道德の健康とは、密接なる關係を有し、家庭の幸福と社會の安寧とは、離る可からざるものなり。不健全なる家庭の惡影響は、流行病、其者

よりも、惧るべき道德的窒扶斯を發生せしむ。身體が不潔なる空氣及び汚物の壓迫的勢力に由りて衰ふるときは、精神も亦必ず同一の不健全なる低音を取るものなり。自尊心なく、感情は遲鈍無氣力となり、品性は腐壞せらる。而かも一時の快樂を貪り、血氣に逸るが故に、酒に心を奪はるに至る。是に於て不幸無慚、不義、罪惡、貧窮を生ずる、亦異とするに足らざるなり。

日常衛生の不注意は、驚くべき冗費なり。窒扶斯病の爲めに、良人を失ひ、父を失ひたる寡婦及び孤兒の養育費たる貧民税と云ふもの即ち是れなり。由來熱病は、貧民窟より漸次富者の家庭に傳染するものなるを見れば、病氣の費用も亦大ならずとせず。避病院、孤兒院の維持費も之が爲めなり。而して貧民の被る損害に至りては、更に甚しきものあり。彼等が唯一の資本たる健康を害することは是れなり。健康は彼等の財産全部なり。されば、一旦之を失へば、即ち破産なり。之を社會の上より觀るも、之を個人の側より考ふるも、衛生の不注意は、豈に恐るべきものならずや。

然るに衛生學が尙未だ一般に重んぜられざるは、何が故ぞ。予輩は恐るを

人の罪に
あらず

は主として無感覺呑氣なるに因ることを、地方官——市町村役場の吏員及び警察官——は、多くは俗に所謂マクラルチース夫人なり。此不潔なる老婆の如く、彼等は甚だ呑氣なる先生達なり。病毒を驅除するには、勤勉と不斷の注意とを要す。而して更に大切なるは増税なり。然るに醜劣なる利害關係は、頑として、四面楚歌の間に立ちて、萎縮まざるなり。彼等は語りて曰ふ、「何事も昔は善かつた」と。——何故に彼等は今日其の如く爲さざるや。望扶斯或は虎刺拉病流行する時、彼等は澄した顔して、天なり人の罪にあらずと曰ふ。あゝ、恐るべき人の罪にあらずなる哉。實に濟度し難き先生達なり。災難は天の爲す所よりも、所謂人の罪にあらずの招く所更に多し。所謂人の罪にあらずは、大酒を以て吾人を毒し、不潔なる水を以て吾人に供給し、不潔なる裏店小路に熱病を蔓延し、都會を汚たれるまゝに放任し、監獄懲治監拘留所の狹隘を告げしめ、空巢覗ひ、窃盜醉狂人を造る。

所謂人の罪にあらずは、又一つの定説——怖るべき定説——を有す。それは僅々放任の二語を以て包括せらる。人が麵粉の硫酸石灰に中毒する時、其治

療法は、放任なり。看よコックラスインデカスをホップスに代用せる爲め、天壽を早くする者ある時、天なりと言うて異しむ者なきなり。買客は物品を買ふ時、詐僞に乗るべからず。人民を不潔なる場所に住ましむるは、彼等を放任することなり。惨害をして乗せしむるものなり。見殺しにするものなり。或る貧しき女が病兒を携へて、食を乞ひつゝ、市街を徘徊せる惨話を耳にして、一富豪は「俺の知つた事にあらず」と曰へり。救貧院の吏員は、此女乞食の爲めに盡力することを欲せず。無情にも彼女を追へり。然るに、哀れなる女乞食は、夫の富豪の門前に辿りつき、地上に坐りぬ。病兒は息絶えぬ。望扶斯の病菌は、燦然たる客室、奢侈なる寢室に侵入して、其富豪家の愛兒を斃せり。今日所謂人の罪にあらずの力は、昔日の如く大ならず。されど予輩は全然之を驅逐することを望まざるを得ざるなり。如何なる場合にも、損害及び社會的沈淪は、天なり人の罪にあらずとの放任主義の爲す業なりと知る可し。責任は何處かに在るものなり。されば、吾人若し之を放任せば、其責全く吾人に在り。吾人は個人的に、獨力にて、惡に抗するに、足らず。されど、吾人は、一致團

結して法律と云ふ形式にて、聯合的、道德の力を、惡の上に加ふることを得べし。法律とは畢竟一致したる意思の表明のみ。而して、社會が各個別々の作用にて爲すこと能はざる所の力を、社會に與ふるものなり。法律は干涉に過ぐることあり。放任す可き事柄にまで、餘計の世話を焼くことあり。されど、如何なる事にも、一得一失は免れざるものなり。

然れども、都會の單獨なる改良——下水、鋪石路、給水、屋根裏住居の禁止の如き——は、之を廣く——即ち貧民の家庭に——及ぼすにあらざれば、割合に其効果なし。衛生制度の妙案は、外觀の清潔を保障し得べし。——人家を建つる地面は、濕氣を排除せざるべからずと云ふ事を規定し得べく、又動物及び植物質の排泄物は、總て清潔に掃除すべしと云ふ事を規定し得べし。——斯くて戸外より戸内に流通する所の空氣は、病氣、災害及び不時の死の因たる傳染病毒を含まざるに至るべし。屋根裏住居を禁ずるも可なり。自今新築すべき家屋に或る制限を設くるも可なり。然れども、市役所員及び寺領官吏の爲す所は、此に止まりて、更に一步を進めて、家庭に及ぼすべきを知らず、猶

ほ龍を描いて晴に點せざるが如し。

故に社會に於ける各個人の盡力を必要とす。而して法律が此等に放任したるは、蓋し一弊害なりと謂ふ可し。政府は人民の住居する家屋を建てず。此等は大小の雇主及び資本家の備ふる所なり。故に成功を保障する爲めに、衛生改良に依りて、此等の利益を制限すること必要なり。

各資本主等は、既に其職工の爲め、衛生的住宅の設備に盡力する所あり。而して斯の如くするは畢竟職工の健康及び道德の進歩を促すが故に、自己の利益なることを發見したり。博愛の精神に富める資本主は、斯の如くして、其恩惠を遠く且つ廣く散布することを得べし。各市の起業家中に労働者向きに適當なる家屋を建て、健康と快樂とを主眼として、下水、清潔及び男女の別を立つることに注意する者二三あらば、其人は社會を益すること甚だ大に如何なる稱讚の辭も尙ほ且つ足らざるほどなり。

されど、此貧民家屋其ものゝ住者も、自ら反省して、之と協力することを要す。彼等も亦衷心衛生運動に加入せざる可からず。然らざれば、折角の恩澤を

享樂すること割合に少なかるべし。純良なる飲料水を供給せらるゝとも、家婦にして之を用ふることを知らざれば——懶惰にして不潔ならば——家屋は依然として、不潔不愉快ならん。空氣流通の設備完全するとも、障礙物を取拂ふことなく、窓扉を閉鎖して開くことなければ、新鮮なる外界の空氣は、通はずして、家屋は依然惡臭紛々、又甚だ不健康なる舊態を改めざらん。或る場合には、家事の整理の爲め、家に清潔なる婦人なかるべからず、而して彼女は國會の法令にて其ごとく作らるるものにあらざるなり。衛生委員は一片の通告を以て、能く節度なき不潔の家婦を變じて清楚たる女子たらしめ、飲酒度なきを變じて、勤勉にして家庭を愛する良人たらしむること能はざるなり。故に各労働者の家庭にては、家婦たるもの、各自奮勵一番努力せざるべからず。或る人の家庭改良意見に曰く、

家庭改良

『労働者社會の不健康不道德の、其住所に起因すること多きは明瞭なりと雖も、亦實際彼等自身に因すること屢々なるを知らざるべからず。心の物を支配するは、物の心を支配するよりも大なるが如く、家人の家屋に頼ること

は、家屋の家人に頼るほど甚しからざればなり。假令不便極まりなく、矮小用を爲さざる家屋と雖も、清潔にして、物堅き家族は、之を善用するの計を誤らず、除くべきは能く之を除き、以て何等の故障もなきものとなすべし。近世科學を利用して善到り美盡くせる甲第と雖も、住む人にして、節制なく不潔ならば、日ならずして不潔不面目なるものとなるや必せり。嚴正、勤勉、清潔なる夫婦は、貧民の往所に禮儀と體面との氣風を傳ふるものなれども、浪費者飲酒家博奕者は、宮殿を變じて不愉快と嫌惡との舞臺たらしむるものなり。されば、各自の品性及び行爲に依ること斯の如く大なりとせば、各自が此事に就きて各自の責任を負ふべく、又各自の家庭改良に關係ある種々の事を知らざる可からざるは、論ぜずして明かなり。』

此説甚だ理あり、果して然らば、同時に労働社會の爲め、大に奮發して、盛んに愉快清潔適宜なる家屋を備へざるべからず。多くの地方に於ては、彼等労働者が、事情已むを得ずして、其場所に引留められ、清潔の絶對的不適當なる家に住みて、天命を短縮し、且つ身體上并に道德上の一切の精力に、最も有毒

質の影響を加ふるは、實に浩嘆せざらんと欲するも得ざる所なり。
家庭は人物の製造場なるが故に、人物の如何は即ち家庭の事情如何に因る。精神は身體の影響を受く。清潔は汚穢と絶えず接觸すれば打破せらるゝに至る。而して動作習慣趣味の墮落は避くべからざるなり。朱に交はれば赤くなると云ふ。我英國大都會貧民窟の特色たる、暗黒、烟霧、不秩序、不愉快なる空氣の中に在りて、誰か能く端嚴以て己を持ち、道德的并に智力的改良に心を専らにすることを得んや。されば吾人が何等かの手段に依りて、彼等の家庭状態を改良するにあらざれば、彼等の劣悪なる道德的及び社會的状态は、餘儀なきものと謂はざるべからず。

吾に住所を改良するのみにては猶ほ足らず、又彼等労働者を教育して其家屋を重んずることを學ばしめざるべからず。嘗て愛蘭の一豪農あり、小作人等の爲めに愉快にして設備の完全なる家屋を建て、以て従來の泥を塗りて纔かに家としたる者に代へしが、後其領地を巡檢したる時、いたくも失望したり。折角改良したる家屋は、依然として不潔不愉快なるものなりき。豚

は舊の如く寢臺の下に在り、鶏は其上に在り、窓の硝子は破れて、庭園は雜草の茂るに任せられたり。是に於てかの豪農は書を一友に寄せて、其失望を懇ふる所あり。友人の返書に曰く、『君は本末を誤りたり、君は清潔、勤儉及び愉快の美德を彼等に教へざるべからざりしなり』と。されば吾人は、先づ第一着に、清潔の必要と効用とを、労働者等に教へざるべからず。是には彼等の理解力、判断力、讀書力及び思索力ある識者たることを要す。之を要するに、労働者は小兒の如くに、學校へ入れて相當に教育せざるべからず。若し多數の労働者を無教育の儘に放任せば、其過半は讀書力なく、吾人が如何に教育ある人の徳義、勤儉、判断并に先見を彼等に期待するも能はざるべし。

清潔

第一に必要なるは、労働者に清潔の習慣を教ふることなり。こは、彼等に讀書を教へざれば、到底實行すること能はざるものにして、清潔は健康よりも急務なり。清潔は自重の氣風を養成し、全家庭の道德的状态を感化す。清潔は勤儉の精神の最も良き代表者にして、其一家の經濟に於ける關係は、猶ほ衛生學の人體に於けるが如く、家事万端を主宰するものなり。清潔は愉快と幸

福との端なり。文明の要素にして國民の進歩を示すものなり。

博士バーレー氏は常に外國を漫遊する人は、清潔といふ點に關して、特に其人民の狀態に注意し、汚穢の豫防に對する設備如何を觀察せざるべからざることを曰へり。氏の說に依れば、人民の禮儀、自重及び勤勉の習慣、并に彼等の道徳的及び社會的状態の觀察は、其他の事項の觀察よりも得る所、實かに大なり。人民は、其禮儀、勤勉及び自重の度に、比例して清潔なり。不潔なる人民は野蠻なり。大都會の不潔なる階級は、常に其都會の危險なる階級なり。故に若し吾人未開の階級を啓發せんと欲せば、先づ彼等より不潔を除かざるべからざるなり。

不潔と不道徳

不潔は吾人の天性を利することなく、人生の寄生蟲にして、吾人の生命を害ふものなり。怖るべく思むべきものは不潔なり。是ある所に美なく、花を欺く天品の美人も、是が爲めに蛇蝎の如く思むべきものとなり、無心の小兒も、是が爲めに執拗短氣、惡癖のものとなり、男子は是が爲めに、無下に賤しく思慮なきものとなる。不潔有る所に、謙遜の徳なし。蓋し不潔は非禮なるものな

ればなり。不潔なる身體には、高潔なる精神宿らず。蓋し身體は精神の殿堂にして、莊嚴を保たんに、は清淨ならざるべからざればなり。不潔は放恣と飲酒とに關係あり。衛生調査員等は、不潔なる人は大酒家なることを明證せり。是れ蓋し彼等は酒精及び鴉片の勢を借りて、以て生活状態の不潔より生ずる不平を忘れんとするが故なり。

予輩は茲に清潔——自重心を起し、多くの美德の根原たる清潔の道徳的并に物質的美を論ずるの要なし。而して殊更に、純潔優美及び禮儀に言及するまでもなし。吾人は直ちに一步を進めて、思想及び感情の高潔は、身體の習慣的清潔の結果なりと斷言するを憚らず。蓋し人間の心情は、多く外界の事情の影響を受くるものにして、風俗習慣は品性に影響する所著しく、道徳的感情及び智力に及ぼす所も亦同じ。

沐浴

モーゼスは最も實用的なる衛生改良家なりき。一般に東洋の宗教は清潔を以て其一要素とせり。東洋人は、常に神聖に次いで清潔を尙ぶのみならず、又神聖其もの一部分として之を尙ぶ。東洋人は、身體の清潔と心の清淨と

を、一にし、不淨の身を以て、神前に出づれば、神罰立所に至るとなす。故に回々教徒は、沐浴場の設備に注意し、其禮拜堂の在る所一として、齋戒沐浴の場所あらざるはなく、之が爲めに、彼等信徒は神前に額づく前に、必ず、不淨を清むることを忘れざるなり。

或る人曰く、「沐浴と云ふ一事は、甚だ尙ぶべきものなり。恐らく、万物の靈長たる人間は、通常沐浴する能力を有せり。卿等請ふ衣を脱して浴槽に入り、或は小川の水湛えたる所に入りて垢を洗へ、卿等は復た前よりは清潔善良なる人とならん。此完全なる身體清潔と云ふ自覺——即ち垢を附けぬと云ふこと——は、卿等の精神に著しき影響を與ふ。即ち卿等は之が爲めに善に近づけるなり。古代東洋の聖者は、疾く是を洞察し、清潔が神の恩恵にして意思なることを曉りぬ」と。

人間の尋常一般の安寧幸福は、小事に注意することに在り。されば小事に注意するにあらざれば、肉體精神及び感情上の快樂は絶対に不可能なり。例へば、小兒の健康は、食物衣服洗濯等の注意に屬するが如し。此等は、實に尋常

なるもの、最も尋常なるものなれども、極めて緊要なるものなり。若し小兒の食物衣服にして其宜しきを得ざるときは、虚弱なる小兒と成るべし。大人に於けるも、猶且つ然り。

大人は此等の尋常なる事物に能く注意せざれば、愉快なること能はず。何人も家庭に快樂を要し、又家庭の快樂を有せざるべからず。而して快樂は清潔勤儉規律の結果——略言すれば、元來區々たる職分の不斷的實行なり。馬鈴薯の料理、麵包の焼方、襯衣の繕ひ、靴足袋の修理、寐床の敷方、床の掃除、小兒の洗湯及び衣服の洗濯等は、甚だ手間の懸からぬ仕事なり。されど、婦人たるものは、家如何に貧しくとも、家政に干與する以前に、必ず此等の實行法を學ばざるべからざるなり。

アシニハートン卿嘗て、ウルグシー實踐學校の學生等に演説して曰く、「嗚呼、何故に、某家の母は某家の母よりも優れる經濟家なるや、何故に、或る者は豊かなる生計を營み、或る者は餓死するや、相等しき家に住みながら、何故に或る家の小兒は健全に生長し、或る家の小兒は病身なるや、何故に此勞働者

は容易に其仕事を成し、彼の仲間は之が爲めに自滅するや、此等の差異を決するものは運にあらず、機會にもあらず、全く其人の平素の心得一つに在りと。

されば甲乙の婦人をして、人生の改善及び人間快樂の増進上、成績に良否あらしむるものは、平素の心得よりも、家庭及び學校に於ける訓練に依るもの多し。されば、此事に遺憾なからしめんには、男女の教育を彼等の従事する所の目的物の性質に應ぜしめざるべからず。

生理學

一例を生理學に取りて之を説明せんに、凡ての婦人には、是非とも、生理學の智識なからざるべからず。其故如何と云ふに、婦人が生理學の原理を能く了解すれば、其小兒は生長して、善良、健康、幸福、賢明なる男女と成らん。小兒は生理學の一題目にして、其研究は彼等の健康及び快樂に必要なり。故に婦人に生理學の原則を教へ、其運用を望むは、理なきにあらざるべし。若し婦人に生理學の智識あらざれば、災難、疾病及び死の因たる、有らゆる失策を演ずるに至る。我英國の大都會に於て、生兒の約二分の一が、生後五歳に滿たずして

死亡するは何が故ぞ。若し男女が、衛生學の原則、空氣の性質及び其血液に及ぼす影響を知らば、人間の健康と同時に、道徳が著しく改善發達せらるゝことを信ぜざらんと欲するも得ざるなり。

尋常一般の事柄に注意を加ふれば、青年社會に今日の如く不快、疾病及び死亡多からざるべし。然るに、吾人は、彼等が自然の法則に反せるまゝに放任せり。吾人若し自然の法則に違反せば、其結果を免るること能はず。吾人は、之を學ぶに足るだけの能力を天より授けられ居れり。されば、社會に若し、盲目無智の人あらば、其應報の惡しきは、固より當然なり。斯くて、數万の人は、區々たる小事なれども、而かも人生に最大必要條件たる智識缺乏の爲め、可惜生命を空しく斷ちつゝあるなり。

家政學

女子には、又必要なる家政學を授けざるべからず。彼等は、一家の收入を儲けざるも、少なくとも、儲けられたる金錢を消費するものなり。されば、彼等の教育は、其金錢を有益に費すことを目的とするを要す。目的既に此に在りせば、算數の智識は、絶對的必要なるものなり。人或は曰はん、女子が算術を習

得して果して何の用を爲すか」と然れども、人は結婚すれば直ちに其必要を感ずべし。若し婦人が、加算乗算に暗く、収入支出を帳面に記することを知らざれば、久しからずして、彼女は自ら大に困ることあらん。收支相償はず、是に於て負債を作さざるべからず。若し彼女にして、衣服に費す所多きに過ぐれば、食物及び教育に費す所少なきに過ぐる譯なり。或る種の事に浪費を爲せば、家政忽ち紊亂を來たし、其負債の爲めに良人を煩はし、以て不幸時には破滅の端を作るに至る。

料理の改

家事の管理に就きて論ずべきもの多し。而して其最も急務なるは料理の改良なり。料理悪しき食物は多くの家庭に於ける不愉快の根原なり。不味なる料理は浪費——金錢の浪費及び快樂の損失——なり。神の接合したる夫婦をば、下手なる料理が往々分離せしむることあり。教育家が青年に教ふべき尋常平凡の事物中、料理は決して看過すべからざるものなり。こは日用極めて必要なるものなれども、亦今日女子教育の最も忽緒に附する所なり。人間の勞力の大部分は、食料の生産に用ひらる。農夫は穀物の播種耕耘に

従事し、牧畜業者は家畜の産出に勉む。此等の物品——穀物、牛肉、羊肉等——は人類の半數を占むる所の女子の手に渡りて、命を繋ぐ食物となるなり。彼等は如何に其能力を用ふるか。彼等に料理の力ありや。彼等は料理法を學びたるか。我國に於て、料理法は最も閑却せられ、進歩せざる術の一なることは事實にあらざるなきや。

職工労働者の多數は、其家婦が料理に無能なるが爲めに、空しく其食料品の滋養物過半を失ひ、半死半生の間に沈淪せり。されども、彼等は猶ほ未だ食物の經濟に晦く、美味にして消化し易きものとなすの術を知らざるなり。

料理と道

中流社會と雖も、此一事に關しては、全く無能なり。或る人嘆じて曰く、「吾人若し、アスモデウス(アスモデウス)は、タルマッドに惡魔の王と呼ばれたる虚榮及び衣裳の惡魔にして、破壊者の義なり)に従ひて、中流社會の食事の状を見れば、不快、浪費、放任、無雜作なるに驚かざらんと欲するも能はざるなり。主人は、口に合ふ食物なしとて妻を詬り、其不平を慰せんが爲めに酒を飲む。斯の如きは、常に直接に食物を浪費し、健康を害するのみならず、又徒らに精神

を勞じ其餘弊を風習及び道德の上に及ぼす」と。

之に反して善く食ひ、適度に飲む人は、食慾の満足を得て、精神を活潑ならしむ。又好機嫌及び良き健康は、良き料理に伴ふものなり。而して良き料理とは、質素なれども美味なるの意なり。主婦或は下女の料理の巧拙如何に依りて、富者も錢を空費するばかりにて不健康なることあるべく、貧者も儉約にして健康なることを得べし。

家庭に於て最も不用なるものは、家政の下手なる主婦、換言すれば無精なる婦人なり。婦人は、時として其一身に關する事に就いては甚だ鋭敏なり。彼等は裁縫師或は小間物屋に對して極めて嚴重なり。彼等は縁飾が狭きに過ぎ、或は襪履の取り方が多きに過ぎるときは、絲の講釋をなすことを得べし。されど、自ら衣裳を縫ふの能ありやと云へば、面を赤くして答ふる能はず。彼等は主婦たるの資格なきなり。若し彼等にして庖厨の事に晦く、料理人の爲す儘に放任せば、彼等の食卓は直に堪ふべからざるものとならん。スープは味なく、魚肉は軟きに過ぎ、牛肉は外側焦げて内側生焼けなるが如き、見るか

らにやをまし、良人は席を蹴つて家を飛出し、俱樂部に走り込みて嗜好せる食物に満腹するを得べし。されど又同時に家庭の不和を生ずるに至る可し。スマニス氏曰く、消化器病は、英國他國よりも遙かに多し。こは、他國の人が、英國人ほど料理法悪しき食物を食はざるに因る。最も觀察力に乏しき旅客と雖も、外國の旅館に於ける八皿乃至十皿の晝飯の美味に驚嘆するならん。而して英國旅館にて毎日、極まりの如く羊肉料理及び碎き芋を食はせられたる人は、其感一層深かる可し。著者が嘗て、ドゥフキニの片田舎、ピク・ドゥ・ミヂー山の麓なる旅人宿に泊りたる事は、今尙ほ記憶する所なり。其時陣取りたる室内を見まはせば、床は粘土を以て固め、器具亦甚だ見すばらし。是に於て著者は友を顧みて曰く、「此處では飯を食ふ氣がせぬ。」友落着き拂きて曰ふ「まあ、暫時待ち給へ」と、約半時間も待ちける頃、食卓は清潔なるテーブル、掛にて被はれ、スープ、鳥料理、ロース、ビス、ボンム、デテル、フリット、フランス豆、麵包、牛酪など、順次に運ばれたり。英國大都會の屈指の旅館に於ては、逆も斯の如き晝飯を食すること能はざるなり。

料理法が女子教育の一課程とならば、社會を益すること極めて大ならん。但し貧民は此裨益に與がることを得ず。英國に於て招待會の御馳走に、常に見はるゝ珍味は、善く煮たる馬鈴薯、善く焙りたる羊肉、善く味つけたるシチュ、ソップ、或は羹等ならざる可からず。善く煮たる馬鈴薯といへば、尋常平凡なる料理なり。されど此珍味を味ふ者は百人中唯一人あるのみ。之を要するに、吾人は料理の常識を必要とす。食物は用ひざる可からず、濫用すべからず。然るに今日食物は、料理法の宜しさを得ざるが爲めに、甚しく浪費せらる。其浪費せらるゝ大部分も、佛國婦人の手に懸かれば、全く美味滋養の食物となるなり。健康道德及び家庭の快樂は、總て料理問題と關係あり。兎に角、料理は勤儉の下婢なり。神の恩恵を最も善用するものなり。何物をも浪費することなく、總ての物を利用するものなり。英國の婦人は身分の尊卑を問はず、家庭に快樂、健康及び富を與ふる所の此術に堪能ならざるべからず。

マイケル・グレン・グレイ嬢曰く、「富の不平均と人口の増加とに依りて、世人は

虚禮に走り、之が爲めに、上流社會の婦人の精力と功用とを減じたるが如し。斯の如くならんに、貴女は貴女ならざるべからず、又他なし。……製乳場、糖菓商、貯藏室、蒸餾室、養鶏場、菜園及び果園尙ほ一つの紡績場を加ふべし。より免職されたる婦人等は、閑散の身となりて、尙ほ未だ商工業上に其地位を得ず。

由來社會は常に教育ある紳士に厚くして、多數の無教育者たる貧民に薄し。後者は他の補助あるにあらざれば、其不幸及び沈淪より脱すること能はざるものなり。何事を爲すにも、餘り富貴に過ぎたるは、人の有用及び名譽に對する一大障礙なり。」

婦人の任

社會の趨勢、上閑散無聊に苦める貴婦人は、頃日貧民救助事業に活動を始めたり。こは實に高尚なる事業なり。されど茲に彼等の入學を待てる他の有益なる學校あり。彼等をして普通の料理法を習得せしめ、而る後其學びたる所を一般の貧民社會に普及せしむべし。其社會を裨益すること幾何なるやを知らず、半ば餓死せる世の良人なるもの其恩澤に浴すること如何に大なる

らん。貧民社會の女子は、教育あり或は地位ある女流社會の補助を要するこ
と多し。彼等の多數は早婚し、何等の準備もなくして、突如人生の行路に進む。
彼等は料理の術を知らず、裁縫の道に晦く、家政に拙なり。故に自ら不取締な
る風習を養成し、家庭を不愉快なるものとなし、遂には良人をして、近隣の酒
樓に登りて、其不平を散ぜしむるに至る。パーミンハムの一職工ジヨセフ・コ
ルベツトなる者が、國會の委員會にて告白したる次の實事談は、工業地に於
ける労働者の實況なり。

コルベツトの實歴

曰く、「我が母は、いと若き時より、一工場に雇はれぬ。聰明勤勉にして且つ徳
あるを以て名あり。彼女は男子職工の間の評判娘なりしが、早婚して十一子
を擧げたり。予は其長子なり。彼女は妻として又母として爲すべき職分を果
たすに充分の能力ありしが、惜むべし、家政の智識を缺きたり。人間教育上最
も緊要なる此一事——家庭及び爐邊を以て、良人及び兒童を樂ましむる方
法——に就きて、彼女は毫も知る所あらざりしなり。彼は眼覺むると共に工
場に出て、一定の時間を限り、家より幼兒を呼びて乳を與ふるを常とせり。家

族の殖えるに従ひ、快樂と云ふものは、悉く失はれぬ。彼女は天より家庭を樂
しくするの能力を稟けざりしなり。されば彼女は、我が父の心に、家庭の愛を
扶植すべき價値を知らざりき。予は嘗て、我が父が家庭にて一刹那の歡樂ある
を見たることあらず。斯の如く、暗澹たる家庭の事情は、全く我が母の訓練及
び教育に缺乏せるの致す所なり。是に於て我が父は無節制となす、父の無節
は、母をして常に窮乏を感ぜしめぬ。彼女は工場の勞働を免れんとて、黽勉倦
むことなかりしが、金錢の缺乏は、常に彼女をして工場に齟齬することを餘
儀なからしめたり。家族は多人數なれば、一瞬間の暇もなく、工場より歸り來
れば、衣服の洗濯修理に、殆ど宵を徹すること數日に及ぶこともありたり。我
が父は毫も家庭より快樂を享くること能はざりき。善く治まれる家庭注意
と適當なる整理ある労働者の家庭に於てすらも、在りては、毫も主人を煩
はすに足らざる家事上の職分も、我が父に取りては、煩累の一種にして、彼は
不明の餘り、常に酒樓に一夕の歡を求めたり。家政上に於ける我が母の無能、
我が父の短慮及び無節制、洗ふが如き赤貧、絶間なき不和、我が弟妹に與ふる

悪例我が小弟等の行末に及ぼす悪影響——我等兄弟姉妹等は毎週一志の賃銀を得んが爲め腕白盛りの時より工場に役せられぬ——飢寒其他我が少時の限りなき苦痛を想へば我が胸中万感交も至る此等は予の忘れんと欲して忘るゝ能はざる所にして我が大都(バーミンガム)及び其近傍に於ける數千の家族の怖るべき不幸の同一境界に沈淪せる者を救はんとする渴望となりぬ予は予の経験上家事に關せる女子の教育は彼等に爐邊を愉快ならしむる方法を教ふれば不幸及び罪惡の大部分を防ぐに足ることを知る者なり酒好きの良人従順ならざる兒童の數大に減ぜん予の知れる限りに於て事務家としての女子教育は不面目ながら忽緒に附せられ居れり予は之を以て焦眉の急務なりと信ず蓋し小兒の物に感じ易き心裡に最初の印象を刻するものは女子にして未來の品性を形づくるべき模範を小兒に與ふるものなればなり

第十六章

生活術

何れの時代にも系圖は人を度るものにあらず假令身は微賤より起るとも紳士の爲すべきことをなせば即ち紳士たるなり

チヨーサー

人は皆彼自身の仕事の子なり

セルマンテス

貧しくとも善き稟性に負く勿れ報いらるべき時節必ず到来すべし

シヨージハーバート

人は自己の弱點を知らざるが故に災禍を招くことありと雖も我が力を自覺せざる者も尙且つ然り夫れ猶ほ土質の如きか地下に金銀あれども地主は之を知らざること往々にして是有り

スウキフト

予の不足せるものをして我が心の歡樂を破らしむること勿れ

シバ

生活術は美術中に其位地を占め文學の如く學問の一なり生活の手段を利用する術なり何事をも都合よくする術なり人生より其最上の快樂を求め是に依りて其最上の結果に到着する術なり

幸福なる生活を営むには、少からず術の運用を要す。詩歌、繪畫の如く、生活術は主として自然に出づるものなれども、教育し發達せしむることを得、父母、教師に依りて訓練せられ、自修に依りて完成せらるゝものなり。故に才智無ければ、即ち生活術は存在せず。

凡そ幸福なるものは、美麗なる大寶石の如く、天下の珍にあらざるが故に、其搜索も無益にあらず、望無きにあらず。されど、幸福は普通の小寶石の相聚まりて美觀を呈するが如きものなり。幸福は人生の尋常なる行路に沿うて散在せる小快樂を享受して歡を盡すことに在り、而して此等の小快樂は、或る大なる快樂を渴望する餘り、漫然不問に置かるゝものなり。幸福は尋常なる職分を忠實正直に完うする時に在るものなり。

生活術の
功用

生活術は、能く實際の生涯に於て例證せらる。例へば、茲に甲乙の二人ありて、其收入相等しく、甲は生活術に巧みなれども、乙は之に晦しと假定せよ。甲は觀察眼と才智とを有す、故に自然は常に彼の眼に斬新にして美に満てり。彼は現在に活動することを得、過去を説くことを得、又未來を察するの明あ

り。彼の觀ぜる人生は、深妙なる意味を有し、良心の満足なる職分の遂行を要求す、故に甚だ樂しきなり。彼は自ら修めて、世の儀表となり、沈淪せる社會を啓發し、總ての公益事業に力を致す。彼の手は決して疲るゝことなく、其精神も衰ふることあらず。彼は愉快に一生を送り、他をして其歡を盡くさしむ。才識益々其度を加ふるが故に、彼の人間及び事物に對する觀察も、日に日に新なり。彼は名譽と幸福とを以て、其全生涯を満たし、其事業の赫々たる勳功を以て、大記念碑となし、龜鑑を後世に貽せり。

乙は之に比して、人生を樂しむこと少なし。彼は年尙未だ老いざるに、既に業に人生の歡樂を消盡せり。彼は全力を以て、人生一切の快樂を得んと欲すと雖も、彼は人生を觀じて、虛無となし、不快なるものとなす。旅行は彼を益する所なし。蓋し彼に取りて、歴史は何等の意味をも有せざればなり。彼は旅館の主人及び隨行者の世話にて、纔かに其生命を保ち、車に揺られながら、或は深山幽谷の間に入り、或は田夫群羊の前を過ぎ、數日の旅程に疲れて、心甚だ樂しからず、繪畫陳列場を覽るは、苦痛なれども、人前を憚りて唯一見する

のみ。彼は直ちに此等の快樂に倦み、銳氣を失ふに至る。癡齡に及びて、彼は遊蕩に流れ、何者に對するも趣味なく、人生は全く虚偽と成り、唯不正不義、漢、偽善家、阿諛者の徒を認むるのみ。彼は人生を樂むことなし。さればとて、亦人生に念を斷つゝの勇なし。是に於て、黒幕は落つ。家に巨萬の富を有しながら、人生は彼が爲めに、一失敗たりしなり。蓋し彼は生活術に就きて知る所なかりしが故なり。

人生に眞の香氣を與ふるものは、金力に、あらずして、反省なり、酌量なり、趣味なり、教化なり、特に必要缺くべからざるものは、觀察眼と感情となり。此等だに有らば、貧しき人と雖も、幸福なることを得べし。勞苦は最も高大なる思想及び最も高潔なる趣味と結合し得べく、斯くて勞働は神聖にして尙ぶべきものとなるなり。モンテニョ曰く、總ての道徳は、紳士に於けるが如く、野人にも適用すべきものなり。人は皆自ら人道の全き形式を具ふるものなり。」

物質的快樂に於ても、良趣味は喜悅の眞經濟家にして、又其増殖者なり。諸君は、友人の家が津々たる趣味に富めるを知る時、漫然其門前を通過するこ

趣味は經濟家なり

とを得ざるべし。其處には清潔、秩序、整頓、優美、清新の氣満ちたり。此等は定義を下し、或は名狀すること能はずと雖も、確かに快感を喚起するものなり。見よ、窓には一輪の花、鮮かに壁上一幅の山水畫ありて、主人の趣味を語り、顔なるも心にくく、明窓の下に囀るは何の鳥ぞ。書架整然として、家具は尋常の品なれども、清楚にして雅致あり。

生活術は家事、万端を節用するものなり。そは健康に宜しき食物を選択し、其風味を美ならしむ。些の浪費なく、食物の原料は粗末なれども、味は頗る美なり。物として清新ならざるはなく、水は玻璃器の中に在りて、頗る清澈されば、又人をして美酒佳肴を想ふことなからしむ。

之を辭して、他の家を窺へば、趣味も秩序もなく、浪費極まりなきものあり。經費は甚だ大なれども、家の中に在るが如き心地せず、不快の氣充滿し、書籍、肩掛、繕ひかけの靴、足袋など、狼藉として、二三脚の椅子の上に、物品堆かく積まれ、何れの室も亂雜なり。如何ほど費用を懸くとも、物の整理せらるべき期あらず。家政管理者が、生活術に晦きが故に、趣味全く缺乏せり。

斯の如き對照は、小百姓の生活にも同じく之を見ることが得べし。貧窮も趣味に依りて美を添ふるものなり。最も健全自由なる人は、空氣清く、道路清潔なる處を好む。白砂を敷ける門前、一點の塵無き窓、檜蓋の香馥郁として朝日に匂ふ趣を瞥見せば、住む人が如何に貧しくとも、其天運を樂む術を知れることを發見すべし。不潔なる農家は之と甚だ異なれり。汚なげなる小兒等は溝の中に戯むれ、無精なる家婦は徒然として門扉に倚り、空氣は何處となく貧乏臭し。而して一週間に於ける前者の収入は、後者の其れよりも大ならず、否寧ろ少なき位なり。

同一の田野、同一の工場に働ける二人にして、甲は雲雀の如く快活に、服装も無下に賤しからず、常に清洒にして、日曜の朝毎に他所行き衣服と着更へて家人と共に會堂に集まり、財布に一錢の餘裕なきことなく、銀行に多少の貯金を有し、讀書を好み、新聞を購讀しつゝあるに、乙は同一の賃銀を得ながら、毎朝澁面作りて工場に出勤し、口に怨嗟不平の聲を絶たず、衣垢づき靴破れ、日曜日となりても、午下りまで家内にうろつき、偶々出づるを見れば弊衣

破帽垢面蓬髮、眼血走り、目脂流れ、小兒は氣儘に、溝の中に惡戯せるも咎むる者なく、日曜の一夜を過せば、囊中忽ち無一物となりて、借財の絶間なく、勿論貯金の有るべき筈なく、唯其日々の露命を繋げるのみ、書を手にせず、考ふる所なく、唯勞して食ひ、飲み、且つ眠るに過ぎず。其間實に雲泥の差あり。是れ抑も何に因する乎。

其理は洵に簡單なり。甲は人生より喜悅と幸福とを生ずるの才と術とを有し、自己及び一族を幸福ならしむるを得れども、乙は斯の如き才を有せず。又自己及び一族を幸福ならしむる術に晦きが故なり。甲に在りて、人生は愛と仁と同情との舞臺なり。注意と先見と算數との舞臺なり。反省活動及び職分の舞臺なり。されど、乙に在りては、人生は肉と酒とに對する競争にして、職分の觀念なく、反省なく、注意深き思慮は、一刹那も心に懷かれざるなり。

遮莫其結果如何を觀るに、甲は同僚の間に尊敬せられ、家族に愛せられ、世の儀表となれども、乙は自ら好んで無用の長物となり、善人には避けられ、其家族は彼の靴音を聞きて恐れ、彼の妻は怕れて近づかず、世に彼の死を悼む

者なく、他人の情に縋らざるを得ざる遺族こそ實に氣の毒の至りなれ。

されば幸福なる生活を營む術を習得するは、何人にも極めて必要なり。赤貧の人と雖も、生活術に依りて、人生の幸福及び歡樂を竭すことを得べし。浮世は涙の谿にあらず、而かも世人往々此嘆あるは皆自ら招く所なり。

吾人の運命を支配するものは、多くは吾人自身なり。兎に角、吾人の心は吾人の所有物にして、吾人は此處に幸福なる思想を養成することを得。又大に吾人の性情及び氣質を制取することを得。吾人は自ら吾人を教育し、多くは隱然として眠れる天性の美を覺醒して之を發揮することを得べく、又良書を讀破して高尚なる思想を養ひ、平和、節制及び德義の生涯に進みて、善人の尊敬を保障し、後日此に龜鑑を垂れて、万世の渴仰を受くることを得べし。

生活術と家庭

生活術は最も善く家庭に現はるゝものなり。良感化力を以て悪感化力を制すべき家庭の最初の要件は愉快なり。不注意、不平、不潔、投げ遣り、及び汚穢の在る所は男子も女子も不快なるものなり。終日營々として勞働せる良人は其勞苦に對する報酬として何物かを得ざるべからず。妻たるものも竭く

家庭と愉快

すべき本分の最小部分は、家庭を清潔に取片づけて其歸宅を待つことなり。是れ即ち眞の經濟、最良の管理——最も價值ある家政法——にして、家庭は之が爲めに愉快なるが故に、人若し之に近づけば、恰も神殿に入るが如き感を懷き、又足を料理店に向けるの必要を感ぜざるなり。

人或は曰ふ、吾人の愉快を崇拜すること其度に過ぎたりと。カムフォルトなる語は、純然たる英語にして、之を他の國語に譯するときは、其意を盡すこと能はず。そは直ちに「ファイアサイド」爐邊即ち家庭の意を聯想せしむ。熱帶地方の人は兎角戶外に在るものなり。彼等は、街上に出で、天日に曝さるゝを常とす。彼等の半生は公然のなり。陽氣は、彼等を戶外に誘ひ出し、食事と睡眠との時のみ屋内に入るばかりなれば、家に住むとは謂ひ難きほどなり。

吾人の状態は甚だ異なれり。一年中數ヶ月は外氣甚だ寒冷なるが故に、室内に蟄居せざるを得ず。故に勢ひ吾人は如何にもして家庭の快樂を求めざるべからず。されば「家庭」と云ふ語には、多くの愉快なる聯想あり。家庭の神が愉快なるは固より當然なり。

吾人は單に、一つの家庭を以て満足するものにあらず。家庭は愉快なるものならざるべからず。實に世の最も不幸なる人は、家庭を有せざる人なり。されど、家庭あれども愉快なるものにあらざれば、其不幸は、家庭なき人と五十歩百歩のみ。チャールスラム嘗て此種の人に就いて語りて曰く、『眞の貧窮者の家庭は家庭にあらず』と。されば、愉快は家庭の眞髓なり。——根本的の原則なり。——
生命なり。

愉快とは、單に、飽食、暖衣、家具の美等を意味するのみに止まらずして、亦清潔、新鮮なる空氣、秩序、節儉——即ち略言すれば、家政の節約及び管理を意味するものなり。愉快とは、人類が肉體的並に精神的に發育する所の土壤なり。されば、愉快とは、道徳の根源なりと謂ふ可し。

金力は愉快の要件にあらず。奢侈は富を要求すれども、愉快を要求することなし。略ぼ、人生の必需品を具備し、清潔、勤儉なる家婦の主宰せる貧人の家庭は、愉快なる生活の要素一切を有することを得べし。不愉快の原因は、區々として一定せざれども、金錢の缺乏に因ることは、家政の智識の缺乏に因る

ほど甚しからざるなり。

されば、愉快の關係する所は頗る大なりと謂はざる可からず。甲の喜ぶ所は乙の悲む所なり。數百年前に於ける貴族の生活状態たる、藁床に眠り、或は燈心草を敷きたる室内に生活する如きは、現今職工と雖も甚だ好まざる所なり。大王ウキリアムは、玉體に一枚の襪衣だも着せず、又宮殿の窓に玻璃をも有せざりき。女王エリザベス陛下は、首めて絹製の靴足袋を使用し給ひし御方にして、其以前の女王は、何れも靴足袋を穿ち給ふことあらざりしなり。愉快は、物に屬するが如く、亦人に屬するものなり。愉快の感情は、善美なる家具、暖氣ある室、山海の珍味、乃至は起居の便利よりも、家庭を支配する人々の品性及び性情に基づくこと多きものなり。

愉快なる人は親切なる人なり。良き性情は愉快に缺く可からざる要件にして、平和相互の寛容、相互の扶助及び万事を好都合ならしむる或る氣質なからざる可からず。諺に曰ふ『草を食うても愛だにあれば、氣まづき牛肉の美味に勝る』と。

愉快なる人

愉快なる人は常識、智慮、細心、經濟の人なり。彼等は正義、眞善に對する自然的親和力を有す。彼等は決して負債を作ることなし。蓋し負債は不正の一種なればなり。彼等は收入の範圍内に生活し、不時の變に備ふるの準備を有す。彼等は節儉を旨とすれども、適當なる場合に、欸待と仁愛とを惜む者にあらざ。彼等の一舉一動は、決して體裁の上より打算せるものにあらざるなり。愉快なる人は、何事を處するにも規律あり。彼等は嚴正にして勤勉なり。彼等の服裝は過不及なく、其季節に適せり。故に天寒けれども風邪に冒されず、天暑しと雖も汗背を浹さず。彼等は時の流行を意に介せず、金の指輪の費用を以て暖かき靴足袋に更へ、華美なる窓帷よりも完全なる寢臺を尙ふ。彼等の椅子は丈夫なり、玩弄物にあらず、粗末なれども坐するに足る。家庭の整理は主として女子の責任なり。何れの家庭にても、其管理者は必ず女子なり。故に女子の手腕に待つ所極めて大なり。男子の生涯は女子を中心として回轉す。女子は男子の社會的系統の太陽なり。家庭生活の女王なり。總て家庭の快樂は女子の品性、性情、組織力及び管理の才に基く。男子が如何

節儉の徳

ほど勤儉なるとも、家庭に節儉なければ、何の役にも立たざるなり。諺に曰ふ「妻の内助なれば男子は榮えす」。節儉は樸素なれども、慈善的なり。隠然として多くの人を幸福ならしむ。個人を刺戟して之を向上するが故に、亦從つて社會を向上せしむ。節儉は恰も最多數の人に最大なる幸福を與へん爲めに設けられたる、確實なる勢力領收所の如し。是無ければ、法律も、慈善も、博愛も、單に姑息手段たるに止まり、害ありて益なきこと往々なり。婦人内助の功著るく、收支相償ひ、家政能く整理するときは、男子は欣然出て、外に働き、二倍の幸福を感じて家に歸るものなり。斯かる婦人は、實に其家庭に於ての一勢力たるのみならず、亦隣人の儀表となるものなり。其兒童の習慣は、彼女の習慣に依りて形づくらる。彼女の實生涯は、不知不識の間に兒童を感化する模範なり。蓋し模範は言語よりも能辯なるものにして、活ける教育なり、活ける智識なり。婦人に獨特なる藝能中、第一に位するものは、手指の器用なり。勤儉にして

家政術に長ぜる婦人が家の重寶にして家庭の快樂に必須缺くべからざるものなることは、何人も否定せざる所なり。慧眼なるペスタロッチは女子教育の過半は、手指の働きのことを道破せり。女子の指頭には智徳あり。されど、智力は勤儉に伴はざるべからず。二者は恰も車の兩輪の如し。女子は常に指頭に器用ならざるべからざるのみならず、亦能く家事を整理するの力を有せざるべからず。

秩序

秩序は必要なるものなり。故サア、アイサト、ヘルプス氏曰く、「今日の教育ある婦人は、全く秩序を缺けり。されば、これは確かに訓練せば矯正せらるべし。卑近なる一例を以て之を言はん。男子の料理人が常に女子の料理人に勝れるは何の故ぞや。其理寔に單純なり。曰く、男子は女子よりも調理上順序的にして能く量衡に注意するが故なり。名醫某氏の談に據れば、女子は全く時間の斟酌に無能なるが如し。されど、これは確かに注意の足らざるの致す所にして、矯正すること難きにあらず。即ち矯正すること一日早ければ、一日だけ容易なり」と。

勤勉

されば、能く家事を整理せんには、秩序なからざるべからず。秩序微かりせば、官衙にても、會社にても、家庭にても、仕事は満足に捗らざるべし。勞力の經濟と云ふことに着眼して、規律正しく仕事に着手せば、成績著しく、舉がらん。不潔は秩序の前に席卷せられ、亂雜は一掃せらる。金錢の消費上にも亦秩序あり。こは女子が平素最も心掛くべきことなり。金錢なるものは、水銀の如く、或る種の人の指頭を滑るものなり。吾人は多くの浪費家あるを知れり。女子の浪費者も亦甚だ多し。少なくとも、彼等は其良人の儲けを利用する方法を知らざるなり。良人の敝衣破帽を意に介せず、獨り自ら不釣合なる服裝例へば、胸飾鬘縁と破れ靴、足袋、流行のボンネットに破靴、絹の上衣に汚れ袴の如き——をなして恬然たる婦人あるは、讀者の屢々實見する所ならん。

勤勉の必要なる事は、絮説を待たずして明かなり。こは事務の眞髓なり。されど、秩序なければ、勤勉も其用を爲さざるなり。勤勉は時として混亂の如き觀あることあり。されど、秩序正しき勤勉なる婦人は、急がず騒がず、從容自若として、其仕事に處す。

細心も亦家政の一要素なり。細心は訓練されたる判断力より生ずるものにして、實務的智識の意なり。細心は適宜精密と關係あり、爲さるべき正しき事及び爲すべき正しき方法を判定し、作業の手段、順序、時期及び方法を査定するものなり。細心は學識經驗に基づくこと頗る多し。

正時間の嚴

時間の嚴正も亦家政上の一要件なり。少しく此美德を守れば、家庭内の風雲を防遏すること甚だ大ならん。食事の遅るゝこと、寺院及び市場への遅參、時ならぬ掃除、夜更けの洗濯、紺屋の明後日的口吻、溢滯、約束の不履行等、數へ來れば、時間の嚴正ならざる家婦に伴ふ弊害甚だ多し。時間の嚴正ならざる婦人は、此種の男子と同じく、人に嫌惡せらる。蓋し、時間の損失、計畫の齟齬、不安の念等、人に迷惑を及ぼすこと大なればなり。實務家に取れて時は金なり。實務の女子に取れては倍々其然るを覺ゆ。——畢竟時は家庭の平和、愉快及び幸福の根本なり。

堅忍は家政上の良習慣の一なり。一旦斯うと思ひ定めたることは、飽くまでも之を固執し、理由なくして妄りに變更することなく、忠實に之を守らば、

纏て良果を結ぶの時期到來すべし。若し其計畫が熟考の上ならば、家事は一切之を中心として、互に聯絡を生ずるに至らん。

手輩は、實例を示して、以上の論據を明かにすることを得べしと雖も、屋上屋を架するの繁を厭うて、姑らく之を讀者自身の經驗に譲らんと欲す。

性情の管理

人生を幸福ならしむる術に就いて、尙ほ説く可き事多し。性情の管理は甚だ有益なる術なり。親切、快活及び寛容に依りて、吾人は、殆ど意の如く幸福なるを得べく、且つ同時に、吾人の周囲の人に幸福を及ぼすことを得べし。吾人は自他の幸福なる思想を喚起することを得べく、又眞面目なる習慣を形づくることが得べし。節制なき良人及び父を見て、妻子は果して如何なる感にか打たるべき。吾人は言語を慎まざる可からず、讒謗罵詈を嚴禁せざるべからず。——これは最も賤劣なる下司の所爲なり。——何事も、匹夫の屢々口にする誓詞の如く無意味なるべからず。彼等は故意ならざる瀆神なり、故意ならざる不敬なり、偶然の犯罪なり。

良き働作

序に一言せんに、我が國人は、良き働作の術に甚だ拙なり。英國人は、無作法

にして、甚だ親み難し。働作なるものは、俗諺の曰ふが如く、人物を作るものに
あらずと雖も、人をして文雅あらしむるものなり。人は心に於て高尚舉動に
於て誠實行爲に於て有徳ならざるべからず、されど故意にするは陋なり。氣
質の溫和及び働作の文雅は、眞の紳士たる資格なり。

良き働作とは、禮法の意にあらず。禮法とは畢竟交際上に適用すべき習俗
的規則たるに他ならずして、禮法の多くは寧ろ野卑の本質なり。禮法は所謂
紳士をして、途上敝衣破帽の人に遇へば、兄弟と雖も之に挨拶することを許
さざるものなり。禮法とは都合悪しき時に、下女に命じて、來客を玄關拂ひに
する所謂不在の虚言者なり。

良き働作に必須缺くべからざるものあり。丁寧親切恭敬の如きは其主な
るものなり。此等は理窟を以て教ふべからず、唯例を以て教ふることを得べ
し。人或は曰く、丁寧とは、内心の尊敬を相手に表示する術なりと。遮莫人は、相
手に對して心に尊敬を懷かずとも、充分能く丁寧なることを得べし。良き働
作とは、畢竟美しくしき舉動と云ふことなり。古語に曰く「美しくしき形は美しくし

き顔に優り、美しくしき舉動は美しくしき形に優る。そは繪畫彫刻よりも、高尚な
る快樂を與ふるものにして、美術中の最も美なるものなり」と、實に吾人を欺
かざるなり。

働作は行爲の裝飾なり。良き行爲も良き働作に伴はざれば、其價值を半減
せらるべし。人落魄して憐みを友人に乞ふ。兎に角其嘆願を聽かれたれども、
『ぞら、呉れて遣る僕は貸借は嫌ひだから』との無禮なる一言を添へられたり
とせば、其救助は單に申譯のものにして、好意を謝するに由なし。されば與へ
る人の働作は、何時までも相手の心を不快ならしむ故に、良き働作とは親切
なる働作の意なり。換言すれば、人類間に於ける一切の愉快なる交際の
要件たる仁愛の意なり。

茲に面白き一逸話あり。或る貧しき兵士、一日多勢の客ありて忙はしき理
髮店に突然入り來りて、既に歸營時間に迫り、馬車を飛ばすにあらざれば、到
底嚴重なる軍律に照らさるゝを免れずとて、手短かに、其窮狀を陳して、焦眉
の急を訴へぬ。理髮店の主人は、快く其請を容れ、一ギニーを與ふ。兵士は其金

額の意外に大なるに驚き「難有う斯んなに拜借しては返却が覺束ないです。私は恥かしながら裸一貫で、此外には何もありません」と曰ひつゝ、ポケットより古き紙片を取出し、更に語を繼いで曰く、「これは靴墨製造法の書付けてすなかく調法なもので、私は是で今日まで、度々將校から半ギニーづゝ儲けたです。貴下の御親切と是と交換する譯にして被下まいか」と陰徳あれば、陽報ありとも云ふべきか、不思議にも、此一片の古紙は、理髮店の主人をして數百萬圓の財産家とならしめたり。夫の古紙の一片は即ち、デー・エンド・マルチン靴墨の製法たりしなり。而して當時の理髮店の主人は富豪、デー君の前身なりしなり。

良き働作は紳士の特色にして、上流社會の専有なりと思推する者あり。されど貧民と雖も、富貴の人の如く、互に良き働作を表示すること能はざるにあらず。人は、財布に一錢の餘裕あらずとも、他人に對して丁寧親切なること敢て難きにあらず。丁寧の及ぶ所は、廣大無邊にして、而かも何等の費用を要せず、物品中の最も安價なるものなり。然し、良き働作は、其他のものゝ如く、教

佛國人の
働作

へられざるべからざるものなり。生れながらにして、良き働作の人なきにしもあらずと雖も、十中八九の人は、働作を學ぶべき必要あるものにして、其學ぶべき時期は、青年時代に限れり。

予輩は既に、労働者が良き働作を學ぶは、彼等自身の利益なる所以を説けり。何が故に彼等は、彼等自身及び他人を尊敬せんとは欲せざるか。自重及び尊敬を示すには、彼等の態度即ち働作に依らざるべからず。予輩は大陸の労働者間に、一般丁寧の良風あるを見て、心竊に畏敬を禁じ得ず。大陸の労働者は、途上相遇ふ時、互に帽子を取りて目禮するを常とす。これは決して男子の估券に關するものにあらず。又威嚴を損するものにもあらざるなり。労働者が、其仲間を尊敬するは、即ち自己及び自己の品位を尊敬する所以なり。親切と云ふことの心にも舉動にも能く現はれたる次第なり。

這般の事に就きては、佛國の労働者に學ぶべきもの頗る多し。佛國の労働者は、互に丁寧なるのみならず、又能く産業を尊敬す。人或は、近時巴里に起りたる人家破壊事件を見て、予の言を疑ふ者あらん。されど、社會共產黨は

例外の人民なりと見做さざるを得ずして、能く佛國人の性格を理解せんと欲せば、佛國全土の民を觀ざる可からず。社會共產黨を見て、直ちに佛國人の全豹を窺ひ得たりとするは、予の取らざる所なり。佛國人は一般に、我が英國人よりも、産業を尊敬する念熾んなり。乞食すら、番人の有無に關せず、路傍の果實を私することなし。こは、蓋し佛國が小産業者の國民にして、其所有品が一般に公開せらるゝが故にして、下等社會の人と雖も、其兒童に他人の産業を尊敬するの公德心を教ふるなり。

這般の産業に對する公德心は、必ず他人の感情に對する尊敬と相伴ふものにして、こは、良き働作を成立せしむるものなり。社會の上下を通じて佛國の兒童は、能く此良風に養成せらる。彼等の中には粗暴なる者少なく、外國人に對して甚だ鄭重なり。彼等は又互に丁寧なり。レイング氏の旅行記中に、之に關せる一節あり。曰く「這般の他人の感情を尊敬する良風を我が國に移し、治く之を普及せしめ、各人の家庭教育の一端とせば、洵に價値ある道德的習慣なり」と謂ふ可し。こは、兩親にも兒童にも具體的德育の一たるものなり。佛

國人が一般に、他國人よりも能く働作に依りて、實踐的道德を教へらるゝは、其國民の美なる一特色にして、社會的經濟の一なり」と。

佛國にては、勞働者社會にも、一般に此美風を有せり。人間一生、涯は、刻一刻、良き働作を表はすべき機會に満てり。工場に於ても、道路に於ても、將た家庭に於ても、各瞬間は、良き働作を表はすべき機會なり。親切を以て他人に接せんと、心の心掛けにあらば、良き働作の習慣を形づくること、甚だ容易なり。こは、常に親切なる行爲に依りて、他人に喜びを與ふるのみならず、又自ら數倍の喜びを感じる次第なり。婦人乃至は老人に、我が席を譲るは、極めて區々たる小事なれども、必ず良心に報いらるゝものにして、其瞬間に於ける心の喜びは、甚だ大なり。

勞働者は、本來絶えず共同的生活を爲すべき必要の上に立つ者なるが故に、一層良き働作を相互に表はす必要あり。超然として意の如く自適するは、富者の始めて能くする所にして、貧者は常に其同儕と相倚る者なり。されば、勞働者の幸福は、直接關係者の親切なる容貌言語及び舉動に依ること、富者

のそれ等に依るよりも、豊かに多し、常に工場に於てのみ然るにあらずして、家庭にありても異なる所なし。書齋に引籠ると云ふ事は、労働者の境遇上到底許されざる所にして、家に在りては妻子と共に席を同うせざるべからず。されば労働者は、妻子に臨むに親切を以てし、又反對に彼等の不親切を能く忍ばざるべからざるなり。

労働者社會に、良き働作を振作するには、種々の困難ありと雖も、人は如何に窮するとも、丁寧親切ならんと欲せば、能はざるものにあらず、而して丁寧と親切とは、良き働作の根本要素なり。輻輳落魄の極に處してすら、人は猶ほ能く仁なることを得るものなり。若し凡ての人に對して、言語舉動能く親切丁寧ならば、彼は之が爲めに良心に非常の満足を感じ、貧苦を忘るゝことを得べし。斯くて彼は其家庭を楽しかしめ、同僚の間に重んぜられ、心ある傭主の眼識に叶ひて、愛顧せらるゝに至る。禮儀ある労働者は、其仲間の儀表となり、漸次に彼等を感じ化する者なり。看よ夫のベンジャミン・フランクリンは、初め微賤にして一職工たりし時、其工場内の氣風を一新したるにあらずや。

良き働作より生ずる普通の喜悅の外に、又種々の娛樂より生ずる所の健全にして無邪氣なる喜悅甚だ多し。人は絶間なく働き且つ眠食すること能はざるが故に、娛樂或は運動等の時間を有せざるべからず。娛樂と云ふ語には、通常世人の想像するよりも、深遠なる意味あり。實に娛樂は教育の要素なり。戶外遊戯中の大人或は小兒を見て、直ちに時間を徒費するものなりと思推するは、大なる謬見なり。或る種の娛樂は時間を徒費するものにあらずして、寧ろ人生を節用するものなり。身體の健康を望まば、屢々樂み且つ運動す可し。娛樂なく又運動することなければ、直ちに坐業に特有の病氣に冒さるゝなり。デルゼー卿曰く、「運動の時間を有せざる學生は、早晚怠惰に流る」と。

若し能く可くくれば、薄絹を以て天體を包み、遊星の美しくしき不滅なる胸に繩梯子を懸け、眞砂の如く天上に煌めく星屑を拾ひ、黒雲を以て日輪を被ひ、蒼穹より嫦娥を拉し來り、吾人の庭園も畑も席卷し、草木を薙ぎ倒し、世界を暗澹たる空氣もて包まん哉と、途方もなき希望を懷く者あり。其愚や遂に及

ぶべからず。縁なき衆生は濟度し難しとは、正に此等の謂ひなるべし。

造物主は吾人に與ふるに娛樂の權能を以てせり。神は人間に、愛、同情、慈善、生産、享樂等の性質を賦與せり。されば、榮譽ある幸福なる人となるは、即ち神の仕事を完成し、天賦の樂みを樂むものなりと謂はざるべからず。

人をして幸福ならしめよ。さらば、彼の行爲も亦自ら幸福なるものとなり。厭世的思想、不幸なる境界に彼を放任せよ。彼は直ちに沈鬱不善の徒と化すべし。故に野卑と犯罪とは、多く快活ならざる人に有り勝ちなり。彼等の心は、自然及び人間との接觸に負くが故に、其感化を享けて醇化することあらざるなり。

人間は天性娛樂慰安の慾に強きものにして、こは他の自然的情慾の如く、善き目的に適用することを得べし。こは到底抑制し難く、一方に抑へれば、他方に頭を擡げるものなり。罪なき娛樂を増進する爲めに、適當なる方法を講ずることは、正に不善の徒に諄々として説き聽かす所の説教一ダースに値ひせり。良娛樂を樂しむべき機會を有せざる人は、必ず不善の徒なり。『惡を懲

らさんと欲せば、先づ之に代るべき善を進めざるべからず』とはシドニースミスの金言なり。

風俗改良論者は、我が國飲酒の惡習が、陋劣野卑なる趣味と良娛樂との缺乏に因する所以に心つかざりき。勞働者の趣味改良を圖る者なく、爲めに其思想は醜劣に、其本能的情慾の満足は、彼等の最も快とする所にして、彼等は暇さへあれば、只管麥酒、或はウイスキーに耽るなり。獨逸人は、素と酒好きの國民なりしが、今日は極めて眞面目なり。『獨逸農夫のやうな大酒家』とは一般に通用したる語なりき。如何にして獨逸國民が其飲酒の惡習を矯正したりしやと云ふに、主として教育と音樂とに依りたり。

音樂の力

音樂は最も能く人間の性情を醇化する力を有す。故に音樂の教化は、國民道徳に甚だ有益なる影響を及ぼすものなり。音樂は各家庭に於ける快樂の根源なり。家庭に一種の引力を與ふるものなり。社交を愉快ならしむるものなり。神父マッシーは、性情の作用を以て、歌の聲調に比したり。彼は、一般人民よりウイスキーを奪ひ取る限りは、之に代るべき或る清健なる刺戟劑を與へ

ざるべからずとなし、以て東奔西走、只管愛蘭全土に音樂會の増設を奨勵したり。彼は愛蘭人に貢獻するに、至大至妙至真なる音樂を以てしたり。是に於て彼等の趣味を高潔にし、働作を文雅にし、性情を醇化する爲めに、唱歌會なるもの全國到る處に起りたり。然るに神父マツシウの貢獻せし好模範が、既に遠き昔の夢となりて、現今全く世に忘却せられたるは、洵に浩嘆に堪へざるなり。

「カシニング」喟然として嘆じて曰く、「造物主は、吾人を繞らすに美妙なる聲調と化せらるべき大空を以して、富贍なる娛樂を吾人の手の達する所に置けり。然るに吾人は、寶の山に入りながら、這般の恩惠を享樂すべき機能の教化に缺乏せるが故に、殆ど手を空しくして歸るなり」と。

音樂趣味の晉進が、國民としての吾人を醇化する所は至大なり。獨逸の如く、我が兒童は宜しく學校に於て音樂を學ぶべし。然らば、嘖嘖たる樂聲は、戸毎より漏るゝならん。英國古代の俗曲は、永く滅びざらん。獨逸人が戰場に出で、或は戰場より歸る時の如く、我が國の男女は、仕事の餘暇、歌ふことを得ん。

仕事は音樂と快活との中に在りて爲ざるゝが故に、決して粗漏に流るゝこととあらざるなり。社會の氣風は一新せられ、快樂は勞働と相提携するに至らん。

家庭の雅

何故に貧人の家庭に或る雅致あらざる乎。貧人獨特の雅致たる清潔は、勿論何人も有せざる可からざるものなり。然るに見て、以て快きものを有せざるは何が故ぞ。貧人は、種々の美と快樂とを備へて、神の恩惠及び人間の勞力に於けるを同一の尊敬を拂ふ可からずと云ふの理あらざるなり。美的趣味は、最も良き且つ最も有益なる本能の一なり。文明の助成者なり。美と雅致とは、必ずしも富者の家庭に特有のものにあらずして、普遍的のものなり。又普遍的ならざるべからざる底のものなり。美は一切の者に存す。自然にも、文學にも、藝術にも、科學にも、將た社會的及び家庭的な生活にも、美の存せざることなし。

花の美

花は頗る美にして甚だ廉價なるものなり。但し舶來にあらずして、普通花と呼ぶるものを云ふ。例へば、薔薇は自然の微笑の最も美妙なるものなり。微

笑める花とは詩の句なり。花の美を感受して、之を愛翫するは、賢人の能くする所なれども、花には陽氣以上の趣味あり。

今假りに、花を始めて發明せる人ありとせよ。彼は新樂園の草創者と稱せられ、神の如く、將た天才の如く、渴仰せらるべし。然れども、此等の愛すべき地上の生物は、天地開闢以來、今日に亘りて、永く滅びざる其歴史を語り、地球上に、食用植物并に愛翫用植物を生ぜしめたる造物主の至善至智を默示せるものなり。

試みに尋常有り觸れたる野生の草花一枝を摘み採り來りて、机上或は床の間の眺めとせよ。諸君は必ず其處に日光の透徹せるが如きを感じん。花の邊りには、何とも言へぬ一種の喜悅あり。病苦に呻吟せる人には、大なる慰安なり。恰も野外より來りて、『來りて我の生える場所を看よ、以て君か情を慰するに足らん』と告ぐる使者の如き觀あり。

花よりも無邪氣なるものありや、彼は天真爛漫たる小兒の如し。彼等は純潔と眞理との權化なり。高潔にして無害なる快樂の根本なり。花卉を愛せず、

又遊戯に餘念なき小兒の聲を愛せざる人は、決して快活なること能はず。花は備あれども語らず。遮莫花は、貴賤老少一切の有情者に對して聲あるものなり。フイヅワリスの詩に曰く、

野末に咲ふ名無し花わが爲めに涙を清め、

胸の奥深く潜める思想をば喚び起すなる。

是非とも室内に一枝の花は有りたきものなり。之を獲る僅に一片を投ずれば足れり。而して是より受くる所の愉快は、其價に超ゆること大なり。諸君若し窓前に一鉢の花卉を備ふるを得ば、其愉快は更に大ならん。花卉の間を透徹する日光ほど清爽なるもの、果して何處にか在る。花間より光を眺むるは、詩的情趣にあらざるなきか。誰か綠蔭を以て爽快ならずと言ふものぞ。諸君試みに、窓前に一本のナスターチウム、或は豈科植物の一種を栽培せよ。さらば其茂り、其遠景、其明暗、或は去來する雲の千變万化等、情趣涌き感興到らずして已まざる可し。古人が、一枝の名花を以て其價を古歌の一篇に比する豈に偶然ならんや。人は即ち是に依りて、高尚なる趣味と刷新とを獲べし。

窓前の花は、空氣を清爽にし、室内に雅致を添へ、日光に新趣味を與へ、眼を歡ばしめ、性情を醇化す。花はものいはざれども、常に美しく、常に微笑めるものなり。一枝の花の價低しと雖も、決して侮る勿れ。何人も諸君と同様に之を獲ること難からざればなり。尋常有ふれたる品物は低價なれども、最も貴重なるものなり。若し金力を以て空氣及び日光を清新ならしめば、世人は側目して其豪奢に舌を捲くならん。されど、彼等は何人にも自由なり、平等なり、故に其恩澤を感ずる者少なし。

吾人は自ら感覺及び情緒の通路を塞ぐが故に、自然の大部分を享樂することなくして漫然過ぎ去れり。吾人は事實の實體に満足して、事實の精神を看過す。されば一層心を大にして、海洋を吞吐するの概あらば、平和なる快樂を享くることも一層大ならん。吾人は紫雲鬢く邊りに天使と遊ぶことを得べく、花間に窈窕たる精と戯むることを得ん。吾人は、人生を樂むに適當なる智識を要すること更に切なり。吾人を圍繞せる尋常の手段方法を快樂に化するの術を學ばざる可からず。

便利にして清潔なる家屋は、粗末なりとも健全なり。窓は、空氣と日光との流通善く、若干の良書を備へ、今日の如き便利なる世の中に、二三冊の書籍を藏せざる者は愚なり。扉に一點の汚なく、厨房は充實し、床の間には一輪の花あり。斯の如き快樂の要素を缺ける人は、貧の貧なるものと謂はざるを得ず。されど、自然の美の外に、藝術の美に對する趣味を有せずして可ならんや。壁上には一幅の圖畫なからざるべからず。近世人智の進歩に由りて、木版、石版、寫真版等の如き技術の發明ありて、藝術上作品の鑑賞を普及ならしめ、一幅の畫を室内に備ふることは、何人にも極めて容易なり。熟練と科學とは、美術を貧民の境界線内に運び入れたり。高尚なる思想を表はし、曠古の偉績を畫き、或は自然の山水、途上の雜觀等を寫せる繪畫は、肉筆にもせよ、木版にもせよ、一の教師なり、教育の一手段なり。自修の一端なり。家庭を愉快ならしむるものなり。家庭生活に情趣を與へ、美を添ふるものなり。觀る人をして自我の念を没却せしめ、精神的并に物質的快樂を富贍ならしむるものなり。

例へば、偉人の肖像畫を観るときは、何人も其傳記を詳にせんとの奮發心を起す。肖像は、其人物に個人的感興を添ふるものなり。之を眺むれば、恰も其馨咳に接するが如き感あり。居常斯の如き肖像に親しめば、吾人は不知不識の間に、其偉人の感化を受く可し。

カソリック教を奉ぜる金貸業者某は、不圖不善を爲さんとの悪心を萌すときは、常に壁上の聖像を眺めて、其悪心を抑へたりと云ふ。斯の如く、聖哲の肖像は、或る度まで良友に勝るものにして、吾人は之が爲めに、偉大なる人物と成ること能はざるも、多少其像を存するに至るべし。

繪畫は必ずしも高價なるものが善美なりと限らず、僅に銅貨二枚を投ずれば獲らるべき木版摺のラファエルが「マドンナ」の百分一の意味も美も無き繪畫に、數百千圓の資を抛ちて惜まざる者あり。ハズリット氏は嘗て一枚の繪畫を評して、何人も其繪の前に在りては、自ら襟を正さざるを得ずと曰へり。此繪は、慈母の愛、女性美及び信仰の思想を寫したるものなり。或る人、又此畫を評して、「神氣室に盈つ」と曰へり。

古畫癖の人は、兎角製作品の時代及び珍奇を見て、其畫の價値を鑑賞せざるものなり。貧人は美の鑑識力を有することを得べく、富人とても盲目同然の者あり。安物の木版摺も、職工に美感を興ふることを得べく、數千圓の古畫は、他人に真似の出來ざる珍品を所藏すと云ふ外には、富豪に何等の感興を興へ得ざることある可し。

繪畫を観て快感あるや否や、是れ其畫の價値を鑑識する一法なり。初め鑑賞に値ひせしものも、暫時にして厭味を生ずることあり。是れ即ち其趣味の進歩せる所以にして、繪畫鑑識の標準は、モントゴメリーの詩より、ミルトンのそれに至る文學の標準の如く、漸次に進歩するものなり。是に於て、從來愛翫せし拙畫を外して、一層高尚なる思想を含蓄せるものと取換へらる可し。斯くて壁上には、美術の確實なる進歩の徑路を留むべけん。畫に框を附けるやうになれば、其畫は相當の作なり。オーウェン・ジョーンス曰く、壁上に摺物の繪畫を懸くるは、趣味の良なるものにあらず、唯白紙を懸くるが如きものなりと。されど予輩は之を謬見と斷言するに憚らざるなり。如何ほど高價な

るチーブルや椅子や、オットマンを澤山飾り付くるとも、壁上に畫の懸からざるときは、吾人の眼に映ずる實は甚だ無趣味なるものなり。畫家の側より見れば、其作品が印刷販賣されるを見、多くの人の家庭を飾るを聞くは、一大刺戟たるや疑を容れざる所なり。木版師、石版屋、銅版屋等は、大美術家の通俗的介绍者なるなり。されば、ターナーの畫は、其原作を富豪家に珍藏せらるのみならず、亦多くのミラーや、プランダードや、ウキルモット等に印刷せられて、一般の家庭に普及せり。又動物畫の巨擘ランドシーアは、木版、或は銅版に係りて殆ど家毎に紹介せられぬ。斯くて、クルックシャンクは、世人に節制を教へ、アロイシエツフェルは純潔と信仰とを説ける者と謂ふ可く、又彫刻師は、やんごとなき宮掖の美術品を、埴生の小屋に移す所の仲介者なりと謂ふ可けれ。生活術の表はるゝ所は多方面なり。生活術を概説すれば、正に下の如くなる可し。曰く、生活術とは、万事を利用する事なりと。凡そ天下に生活術の左右し得ざるものあらず。生活術は家庭に光輝と雅致とを添へ、自然に一新力を

加ふるものなり。是に依りて吾人は富豪の遊園及び森林を自由に楽しみ、空氣を呼吸し、日光に背を干す。吾人は青草に遊び、飛雲花卉を樂しみ、世界を愛し、宇宙の聲を聞く。快活なる好意、可憐なる誠實を産むものは、生活術なり。是に依りて吾人は他人を喜ばしめ、自己を幸福ならしむ。又吾人の品位を高む。之が爲に吾人は地球上の賤しき禽獸以上に超脱して、万能の神を感觸することを得べし。斯くて吾人は時を無窮に傳ふを得。是にかたか始めて、生活術は其終りを有す。

2/15/41

明治三十八年十月四日印刷
明治三十八年十月九日發行

勤儉論

定價金四拾錢

著者 若月保治

發行者 山縣操

印刷者 青木弘

印刷所 株式會社 秀英舎第一工場

不許複製

發行所

東京市本郷區駒込西片町十番地
電話 下谷二千四百五十三番

内外出版協會

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

書圖兌發會協版出外内

路行の生人

編二第 編一第
版五第

(錢四稅郵 * 錢拾參金冊各價定)

—(斑一評批)—

『新人』 生れてより死に至るまでの人の心得を、忠實に教へたる如何にして人の人たるべきを、雄偉なる人たるべき道を踏むべきを、平なる面も常識に富める者、例へば日本にて云はば、福澤翁といふならん、故に書中云ふ所多くは平凡の談に過ぎざれども、アンケロソフ人の氣概乃至常識の見える面白し。

『教育時論』 譯文の流暢明快なる從來世に有りふれたる内容の價値に至りては、教訓と警戒とを與へ、日々の重同情と獎勵とを與へ、希望と慰安とを與ふべからざるなり。

『日本人』 近頃々の好評ある人生の行路の第二編にて、品性の修養を説き、偉人は如何にして其の人格を作りたるか、最も興味ある種々の例證を、精力の發展と進歩的生活法を説きたるものに、輕妙と流暢と多趣味格の何物なるか、教訓を盡くさるる所なり。

『英學生』 本書の第一編は既に第四版に達し好評を得し、至當なりといふべし、何となれば、本書が斯の如き文章は趣味多ければ、其の興ふる教訓は健全を説く文章は趣味多ければ、修養に就きて論ずる言々盡く傾聴すべく、服膺すべきものならざるはなし、殊に本書の他の類書に比して優れる所は、比喩説明の巧みなり、巧みありてこれが爲めに、動道的教訓と小説の如く面白く讀まるゝなり。

明治三十九年五月十二日印刷

明治三十九年五月十五日發行

勸諭論の中

定價金四拾錢

不許
複製

著 作者 竹 村 修

同 若 月 保 治

發 行者 山 縣 操

印 刷 者 青 木 弘

印 刷 所 株式會社 秀英舎第一工場

東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地

發行所

東京市本郷區駒込西片町十番地
電話 下谷二千四百五十三番

内外出版協會

MARDEN'S ECONOMY

著原ンデIマ
述譯藏常田桑

人 生 教 育

編 一 第

め、すの約儉

(錢二稅郵 * 錢拾二金價定)

本書は原名エコンミーと題し、有名なる「ブッシュング、ツィンゼ、ウロント」の著者マーデン氏の著す所にして、諸方面より、儉約の人生に缺く可からざる事を説き、兼ねて貯蓄及び可減債の方法を懇切に指示したるものなり。其内容は、多くの金言と實例とを以て、何人も容易に愉快に健全に儉約し、貯蓄し、又負債を避け或は之を減じ得る手段方法を説明するにありて、世間勤儉貯蓄に關する書乏しからずと雖も、未だ此書の如き適切なるものはあらず、一たび之を繙けば、偉人、學者、富豪の實驗談に依りて、致富成功の要訣、明かなるものあるべし。誠に家庭の好讀物、人生の好伴侶と稱すべきなり。

會協版出外内地番十町片西込駒區郷本京東元版

明治三十九年七月十日印刷
明治三十九年七月十三日發行

勤儉論の下

定價金四拾錢

不許
複製

著 者 竹 村 修

發 行 者 山 縣 操

印 刷 者 青 木 弘

印 刷 所 株式會社 秀英舎第一工場

東京市牛込區市ヶ谷加賀町
一丁目十二番地

發行所

東京市本郷區駒込西片町十番地
電話 下谷二千四百五十三番

内外出版協會

編子と羽仁 筆主友之庭家

家庭之友 家計簿

明治三十三年九月

實價四拾錢 郵稅八錢

讀賣新聞評 羽仁もと子氏の立案に成りしものにて、昨年
の本欄に於ても紹介せしことあり、記者は

昨年この家計簿を用いて非常の利益を得たり、この家計簿の結果を語るの外、この家計簿に對していふべきことなし

時事新報評 昨年この家計簿を編輯發行せしに、評判甚だ高く、依て一家の經濟上の利益を得たりとて、禮

依て一家の經濟上の利益を得たり、禮

狀を送るもの多し、先づ一家計簿の目的、め置き其日々の支拂を帳簿の上にて、簡明瞭に依て、豫算超過を防がんとするに在り、月々家計の項目を十二豫算と照合するに、分ちて日々附込みの欄を設け直に、豫算と照合するの便を、工風頗る巧に、家計の整理を欲するには、是非一冊を具ふるの要あり

婦女新聞評 昨年發賣して大に好評を博し、實用的家計簿なり、目を副食物費、米薪炭等費、教育費、家具費、衣服費、臨時費等に、分ち毎費目の下に、豫算額記入欄あり、支出せる不足額を記し、かき、月末年末に、算盤な

超過に苦む人家計簿を用ゐ給へ

東京本郷區駒込西片町十番地内外出版協會

SMILES' SELF-HELP

譯述 賢上 畔

自助論

(全三冊 * 各冊定價四拾錢 * 郵稅四錢)

▲名士感化の原動力

明治今日の學者、政治家、教育家、實業家、有ゆる階級に一頭地を拔んでたる人々に於て此自助論の感化を受けざるものなしと云ふも過言にあらず、此書の翻譯久しく絶版同様になりしを、從來の誤を正し、読み易き文體を以て改めて譯述したり、他日の名士感化の原動力となるものは此書なるべし。(新公論)

▲青年座右の寶典

スマイルス氏の四大著書中最も有名なる『セルフヘルプ』の譯書なり、會て中村敬宇氏の手により『西國立志編』と題して初めて我國に紹介せられたる、當年の讀書界を風靡したるもの、今や畔上氏の手に依りて時文の態を探り且つ中村氏の譯書に省かれたる所を補はれたるは我輩の最も喜ぶ所、我輩は青年の座右に缺くべからざる寶典として、大に本書を推奨するものなり。(商業界)

▲最良なる修身書

本書は彼の有名なるスマイルスの原著『セルフヘルプ』を譯したるものなり。本原書の譯としては故中村敬宇氏の『西國立志編』風くより世に行はれたるも、方今坊間その版を絶てるが如く、且つ敬宇氏の譯は原文を省略せられたる所甚だ多く、且つ文章漢文調に偏して現今の青年には解し難き趣あり。畔上氏之を遺憾とし流暢なる文章を以て、遺漏なく原著者の文意を傳へんことを期せられたる、是れ本譯書の成りたる所以にして、青年の氣風に堅實なる傾向を與へん爲め、本書の如き修身書の行はれんこと吾等の切望する所なり。(教育時論)

東京本郷區駒込西片町十番地内外出版協會

BY THE FIRESIDE

著原 | ネグワ 著 活生易簡
述譯 修村竹士學文

話講庭家

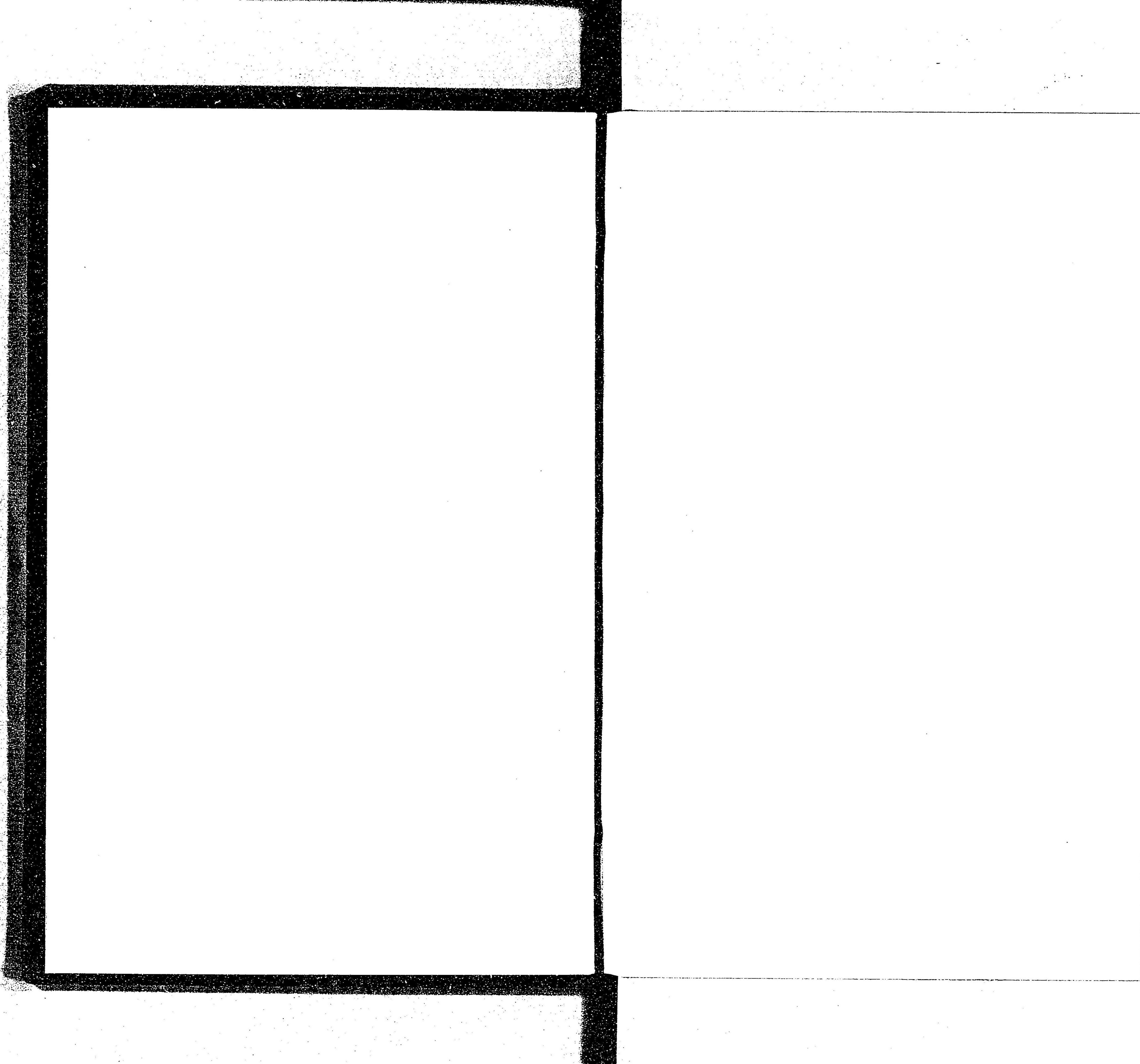
(錢四稅郵 * 錢拾五金價定)

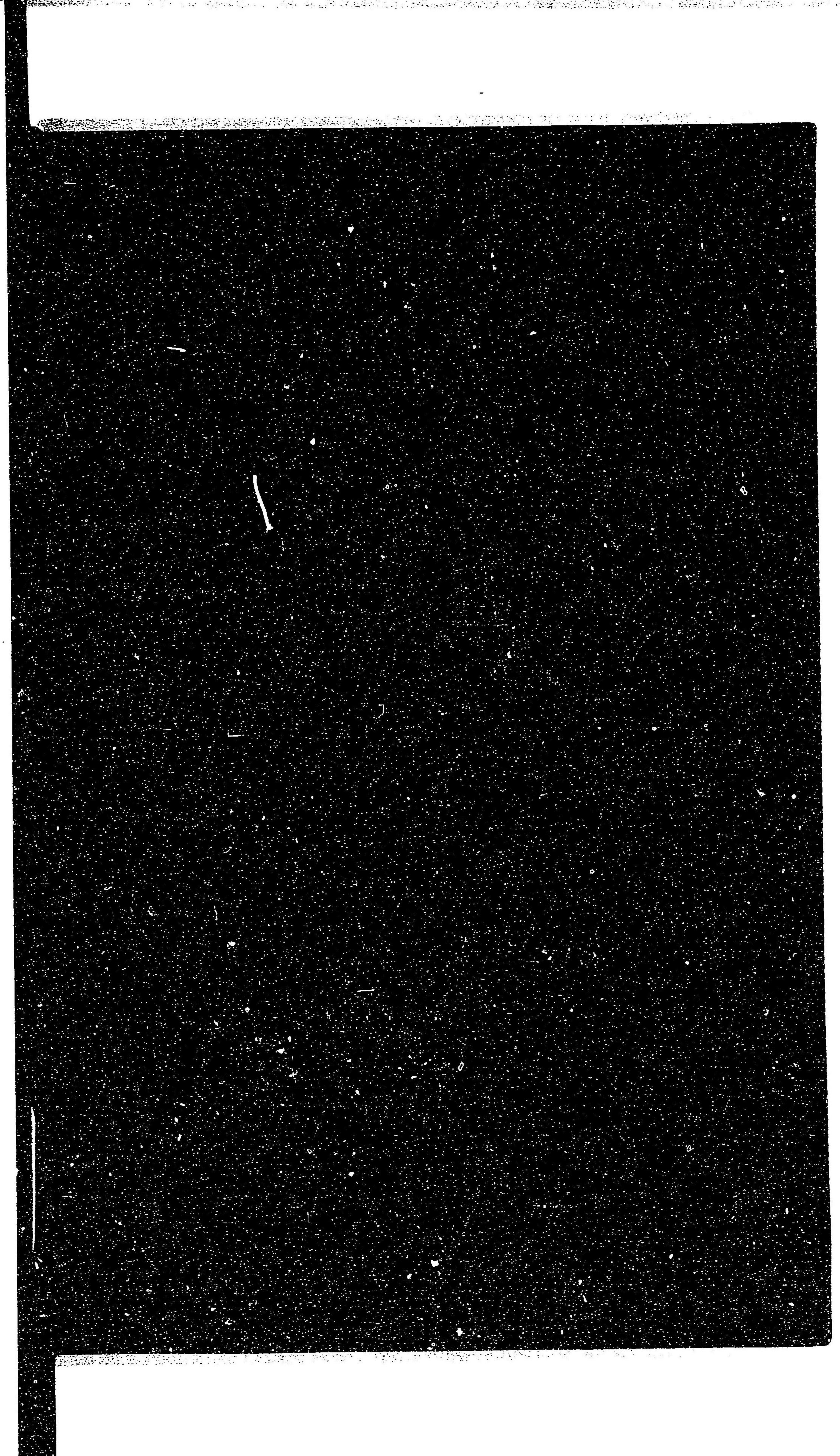
家遺悼歸哀知家欺晴凶婦家吾召老少兄家父結家家	庭物め別己庭人庭人 人年弟庭 庭 目	の家の家離友の好機 ののの使のと 教 精 次	宗歴 庭省苦 嫌待天日事序畜ひ務人妹育母婚神屋
------------------------	--------------------	------------------------	-------------------------

▲圓滿幸福なる家庭を作らん
と欲する者は先づ此書を一
讀せよ
▲此書の與ふる教訓は穩健に
して實際的而かも斬新にし
て奇抜
▲最も健全なる家庭の讀み物
として敢て江湖に推薦する
に足る
▲ロウズヱルト氏は此新編
音書を彼の國民に讀ましめ
んとす
▲萬朝報曰く 家庭問題の喧
しき今日最も有益なる良書
たるを疑はず、譯文暢達に
して解し易きは何よりも嬉
し
▲中央新聞曰く 家庭問題を
有ゆる方面より研究せるも
の家庭改善の良參考書とし
て何人も一讀すべきものな
らん

會協版出外內地番十町片西込駒區郷本京東元版

2/20-88





79
620

(M)

041010-000-2

79-620

勤儉論

サミュエル・スマイルス/著

M38-39

BDF-0112



